

資料編

< 目次 >

I	高齢者に関する状況等	1
1	高齢化の状況	1
2	平均寿命の推移	2
3	要介護認定の状況	3
4	後期高齢者の生活の状況	4
II	本県の医療費の動向	6
III	本県の後期高齢者医療費の動向	8
1	本県の後期高齢者医療費	8
2	県内市町、二次医療圏の後期高齢者医療費の状況	14
IV	国民健康保険と後期高齢者医療のレセプトデータにみる 本県医療費の状況	18
1	年齢階層別医療費状況	18
2	1人当たり医療費	19
3	入院医療費の状況	21
4	入院外医療費の状況	22
5	入院＋入院外医療費の状況	23
6	疾病別医療費の状況	25
V	生活習慣病の状況	36
1	本県の生活習慣病に係る医療費の状況	36
2	受療動向	42
3	死亡率	43
4	メタボリックシンドローム および糖尿病、高血圧症、脂質異常症の状況	44
VI	県民の生活習慣の状況	47
1	食生活の状況	47
2	運動の状況	49
3	喫煙の状況	50

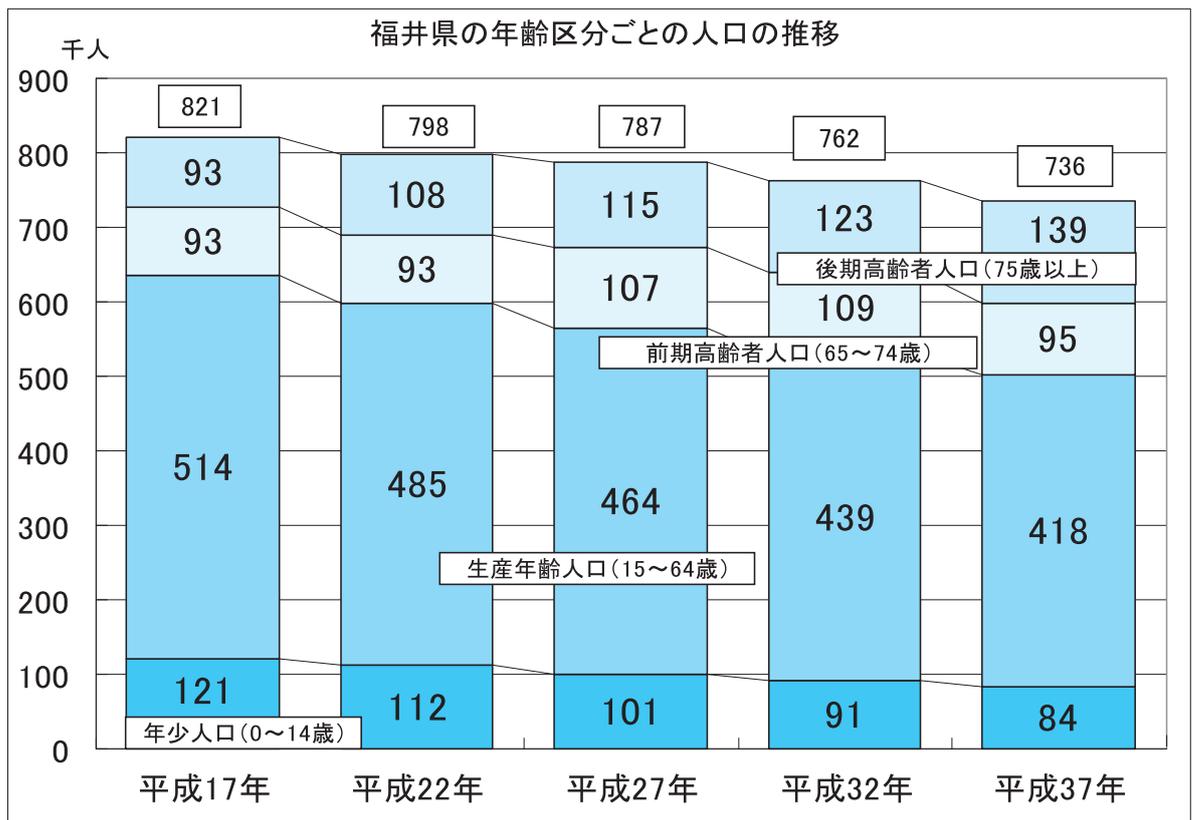
VII	健診の状況	5 1
VIII	平均在院日数の状況	5 2
1	全般的な状況	5 2
2	平均在院日数の推移	5 4
3	平均在院日数と後期高齢者医療費（入院）との関係	5 5
4	二次医療圏別にみた平均在院日数の状況	5 5
	計画策定の経過、計画策定懇話会委員名簿	5 6

I 高齢者に関する状況等

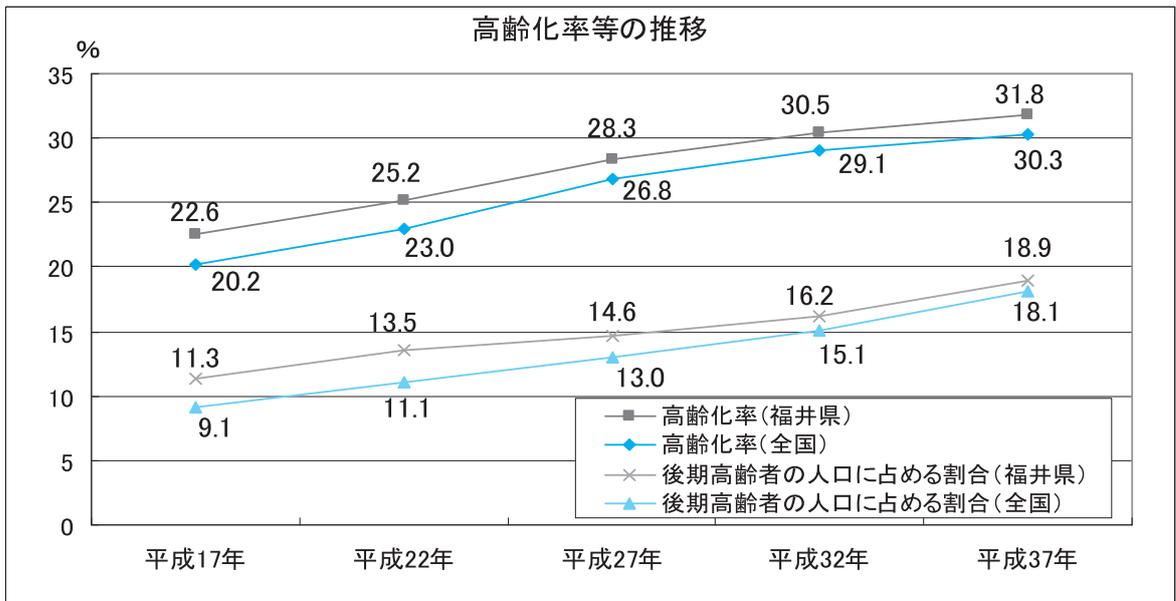
1 高齢化の状況

本県の全人口は、今後減少傾向が予想されますが、65歳以上の高齢者人口について、平成22年には約20万人（高齢化率：25.2% 全国21位）だったものが、平成37年には約23万人（高齢化率：31.8%）に増加すると考えられます。高齢化率は、平成22年において、全国平均（23.0%）より3年程度先行して高くなっていますが、平成27年以降には、団塊の世代が多い大都市圏の高齢化が高まるため、全国平均との差は小さくなっていきます。

また、後期高齢者（75歳以上）でみると、平成22年は65歳以上の高齢者の半数である約10万8千人で全人口の13.5%（全国19位）ですが、平成37年は約13万9千人に増加し、18.9%を占める見込みです。



- * 総務省「国勢調査」（平成17、22年）
（年齢階層別の集計に当たり、年齢不詳の数は除く。）
- * 国立社会保障・人口問題研究所「日本の都道府県別将来推計人口」



* 総務省「国勢調査」(平成17、22年)

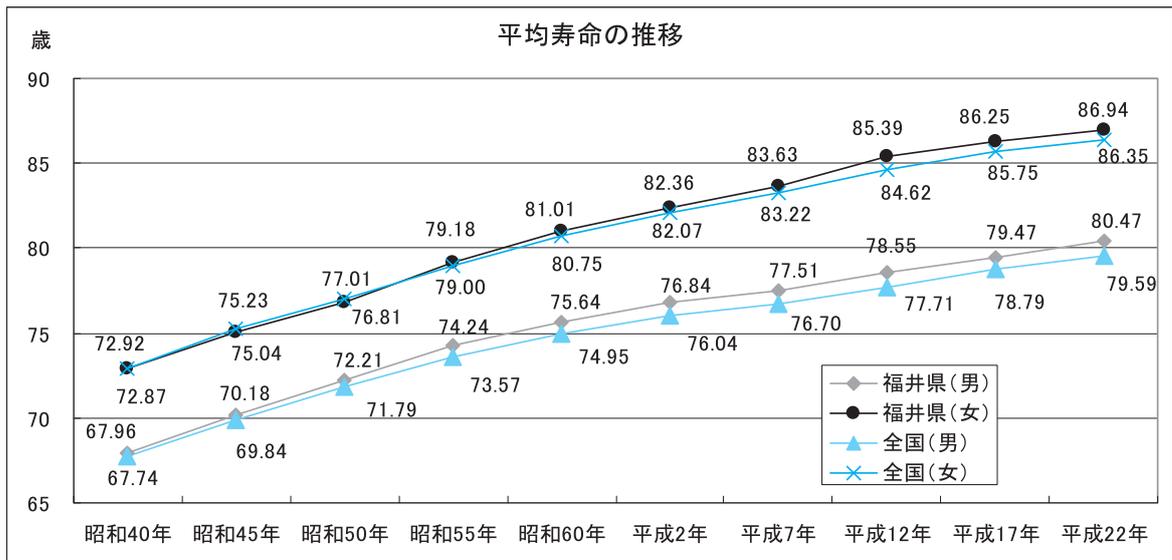
(年齢階層別の集計に当たり、年齢不詳の数は除く。)

* 国立社会保障・人口問題研究所「日本の都道府県別将来推計人口」

2 平均寿命の推移

本県の平均寿命(出生時における平均余命)は、平成17年は男性が79.47歳で全国4位、女性が86.25歳で全国11位でしたが、平成22年度は男性が80.47歳で全国3位、女性が86.94歳で全国7位と順位を上げ、全国上位を維持しています。

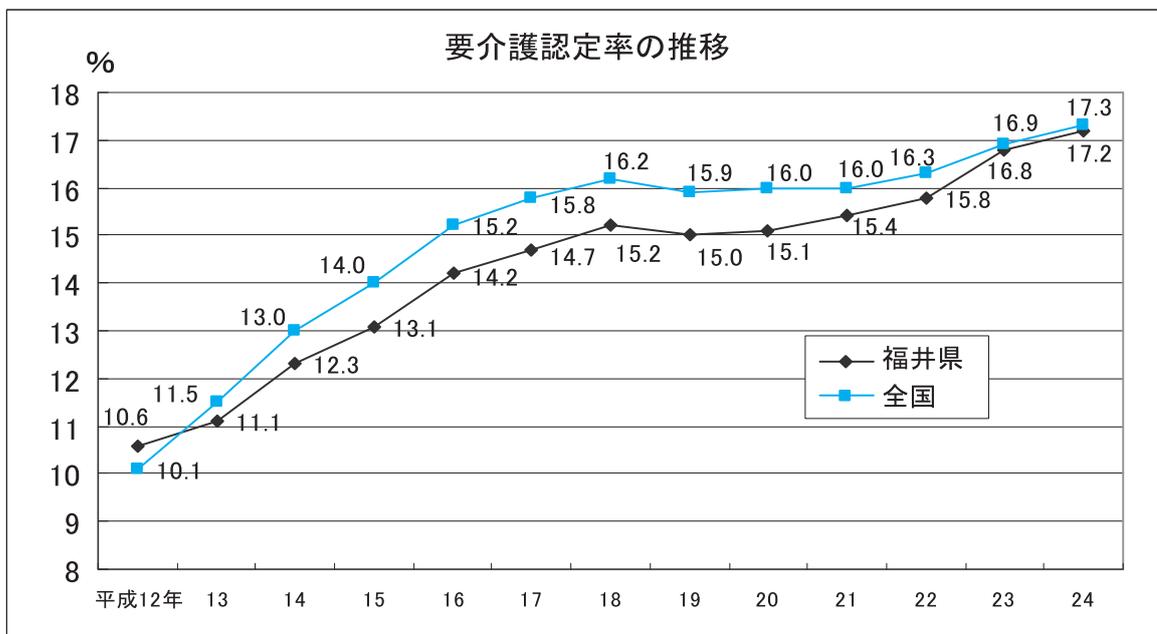
なお、全国の平均寿命は男性79.64歳、女性86.39歳と平成17年より男性が0.85歳、女性が0.64歳伸びています。



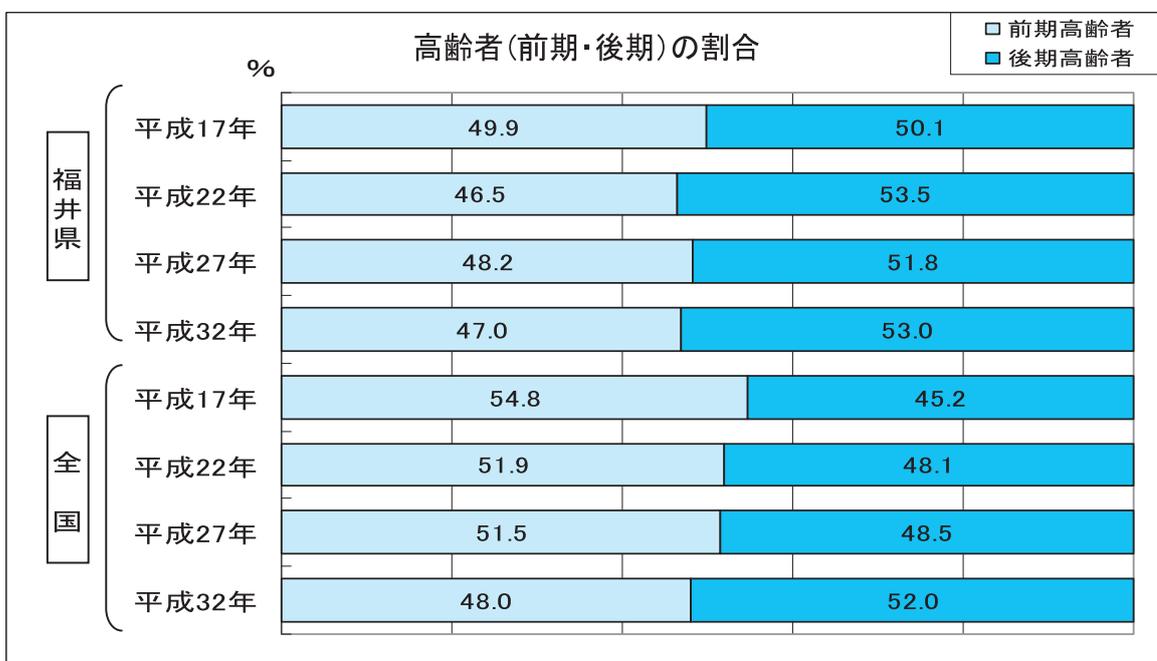
* 厚生労働省「都道府県別生命表」

3 要介護認定の状況

本県の65歳以上の高齢者に占める要介護（支援）認定者の割合は、平成19年を除き、増加の傾向にあります。平成24年の本県の要介護認定率は、17.2%（全国33位）と、全国平均の17.3%を0.1ポイント下回っています。一方で、平成18年は、全国平均を1ポイント下回っていたことからすると、本県の要介護認定率は全国を上回る勢いで伸びているといえます。



* 厚生労働省「介護保険事業状況報告」（各年4月30日現在）



* 総務省「国勢調査」（平成17年、22年）

* 国立社会保障・人口問題研究所「日本の都道府県別将来推計人口」

4 後期高齢者の生活の状況

(1) 世帯の状況

① 一人暮らし後期高齢者の割合

本県の一人暮らし後期高齢者の割合は、全国的にも低く、後期高齢者の多くが家族と同居しています。

■一人暮らし後期高齢者数の状況

	一人暮らし後期高齢者数 (人)			後期高齢者に占める割合 (%)		
	男性	女性	計	男性	女性	計
福井県	2,655	9,728	12,383	6.6	14.4	11.5 (45位)
全 国	573,501	2,019,113	2,592,614	10.8	23.1	18.4

* 総務省「平成22年国勢調査」

② 一般世帯に占める一人暮らし後期高齢者世帯の割合

本県の一般世帯（274,818世帯）に占める一人暮らし後期高齢者世帯の割合は、平成22年で4.5%と全国平均より低くなっていますが、平成17年から0.8ポイント増加し、今後も増加傾向が続くと予測されています。

■一般世帯に占める一人暮らし後期高齢者世帯の割合 (%)

	平成17年	平成22年	平成27年	平成32年
福井県	3.7	4.5	5.2	5.9
全 国	4.0	5.0	5.8	6.8

* 総務省「国勢調査」(平成17年、22年)

* 国立社会保障・人口問題研究所「日本の世帯数の将来推計(都道府県別推計)」

③ 三世帯世帯の割合等

三世帯世帯の割合は全国で2位と高くなっていますが、共働き率も全国一高いため、日中は後期高齢者だけの生活になる場合が多いと考えられます。

■世帯の状況

	一般世帯の 平均人員 (人)	三世帯世帯割合 (%)	共働き率 (%)
福井県	2.9 (2位)	17.5 (2位)	56.8 (1位)
全 国	2.4	7.1	45.4

* 総務省「平成22年国勢調査」

(2) 後期高齢者の就業の状況

本県の後期高齢者の平成22年の就業者数は、11,192人で全就業者数の2.8%を占めています。

なお、後期高齢者の人口に占める就業者割合は10.4%（全国17位）であり、全国の9.8%に比べ0.6ポイント高くなっています。

■ 後期高齢者の就業者割合

		就業者数 (人)	全就業者に占める 後期高齢者就業者 割合 (%)	後期高齢者人口に 占める就業者割合 (%)
平成22年		11,192	2.8	10.4 (17位)
福 井 県	男 性	6,827	3.1	17.0
	女 性	4,365	2.4	6.5
平成22年		1,382,975	2.3	9.8
全 国	男 性	837,401	2.5	15.7
	女 性	545,574	2.1	6.2

* 総務省「平成22年国勢調査」

<参考> 65歳以上の就業者割合

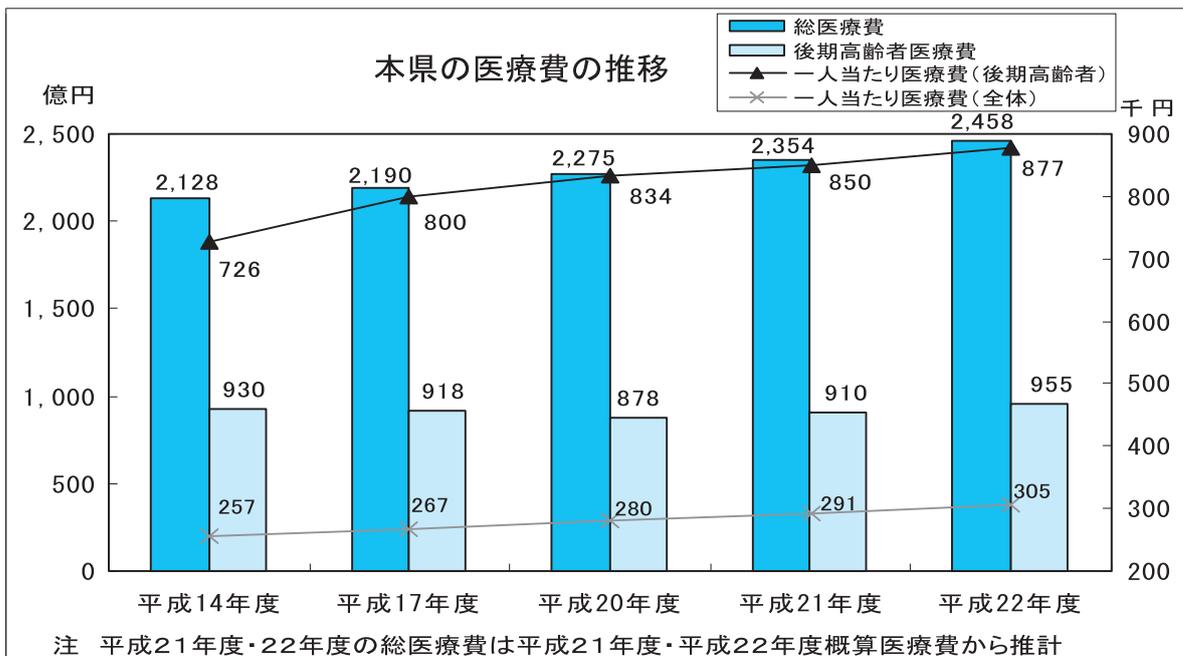
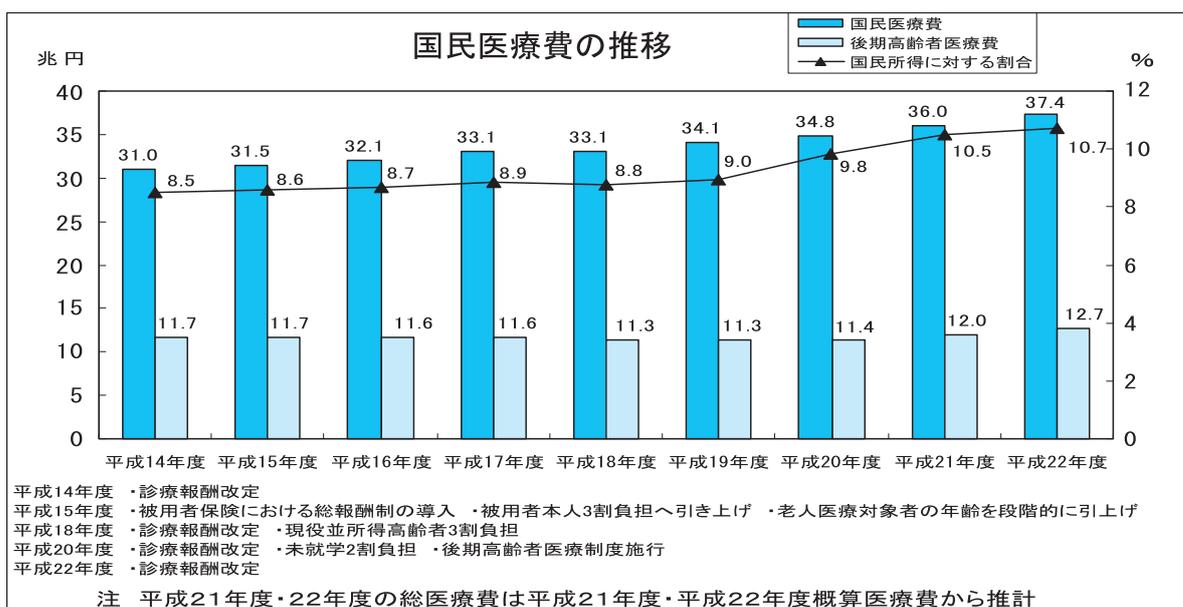
		就業者数 (人)	全就業者に占める 65歳以上就業者 割合 (%)	65歳以上人口に 占める就業者割合 (%)
平成22年		44,086	11.0	21.9 (10位)
福 井 県	男 性	26,850	12.1	32.0
	女 性	17,236	9.6	14.7
平成22年		5,922,058	10.0	20.4
全 国	男 性	3,639,655	10.7	29.2
	女 性	2,312,348	9.1	13.8

* 総務省「平成22年国勢調査」

II 本県の医療費の動向

国民医療費は、平成22年度で約37.4兆円、前年と比べて約1.4兆円、3.9%の増加で平成14年度の1.2倍となっています。患者の一部負担増や診療報酬改定等がなければ、医療費は毎年1兆円、約3%伸びていく傾向を示しています。

一方、本県の医療費については、概算医療費から推計すると、平成22年度は2,458億円、前年と比べて約104億円、4.4%の増加で平成14年度の1.16倍となっています。また、平成23年度の概算医療費では本県の一人当たりの医療費は302千円（全国25位）と全国平均の296千円を上回っています。

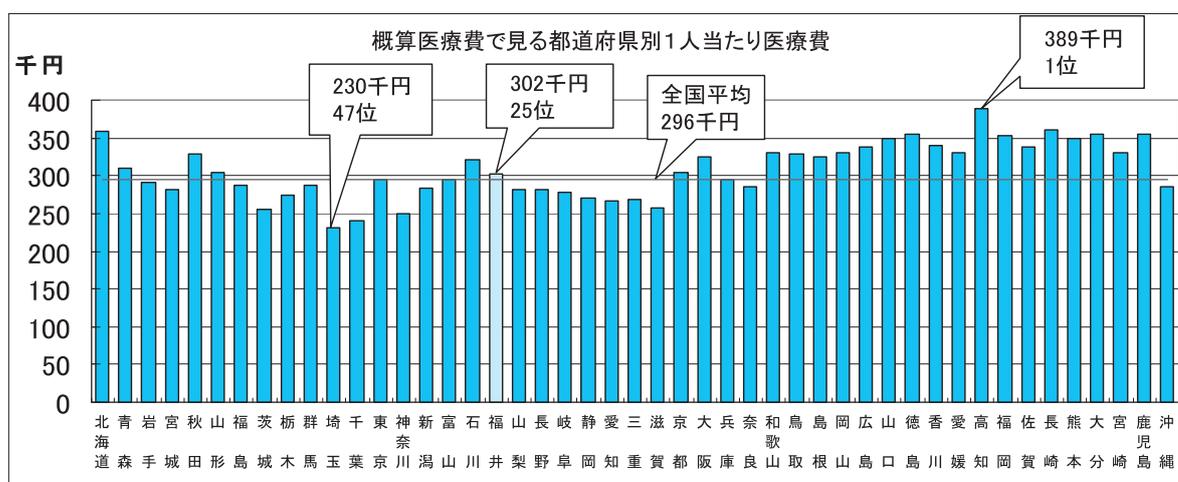


- * 厚生労働省「国民医療費」、「老人医療事業状況」、「後期高齢者医療事業年報」
- * 総務省「人口推計」

<参考>平成 23 年度概算医療費の状況

総医療費	合計	一人当たり医療費
福井県	2,423 億円	301,714 円
全 国	37.7 兆円	295,514 円

後期高齢者	合計	一人当たり医療費
福井県	990 億円	890,317 円
全 国	13.3 兆円	915,733 円



- * 厚生労働省「概算医療費」
- * 総務省「人口推計」

注 国民医療費は、保険診療に係る医療費の総額であるのに対し、概算医療費は、審査支払機関で処理される医療費を集計したもので、現金で給付される医療給付費は含まれない。

また、国民医療費の都道府県別医療費は患者の住所地ごとに集計を行っており、概算医療費の都道府県別医療費は患者が受診した医療機関所在地ごとに集計を行っている。

Ⅲ 本県の後期高齢者医療費の動向

1 本県の後期高齢者医療費

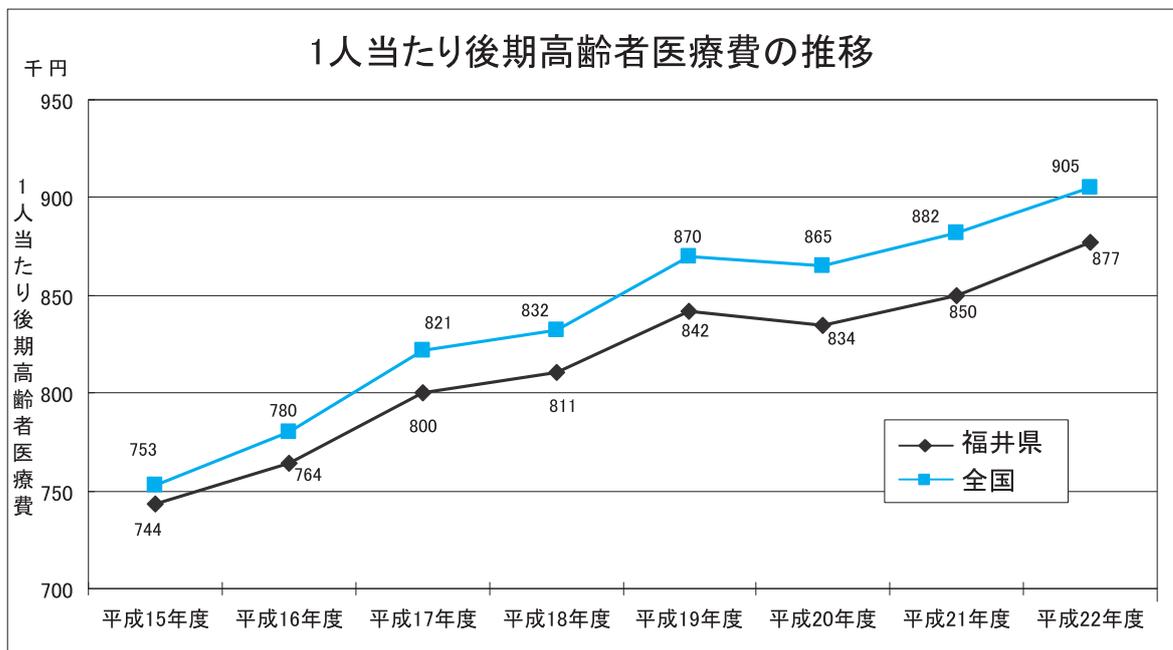
本県の平成22年度の後期高齢者医療費は955億円で、総医療費2,458億円の38.9%を占めています。全国の割合34.0%と比較すると、本県は、後期高齢者医療費の占める割合が高くなっています。1人当たりでみると、後期高齢者（後期高齢者医療費877,060円）は、県民1人当たり（304,963円）の約3倍の高さとなっています。

後期高齢者医療制度

平成14年10月の制度改正により老人医療制度の対象者は、「70歳以上」から「75歳以上」に順次引き上げられ、平成20年4月からは、後期高齢者医療制度に移行しています。

(1) 1人当たり後期高齢者医療費の推移

本県の1人当たり後期高齢者医療費は、平成15年度から平成22年度まで平成20年度を除き増加傾向を示しています。

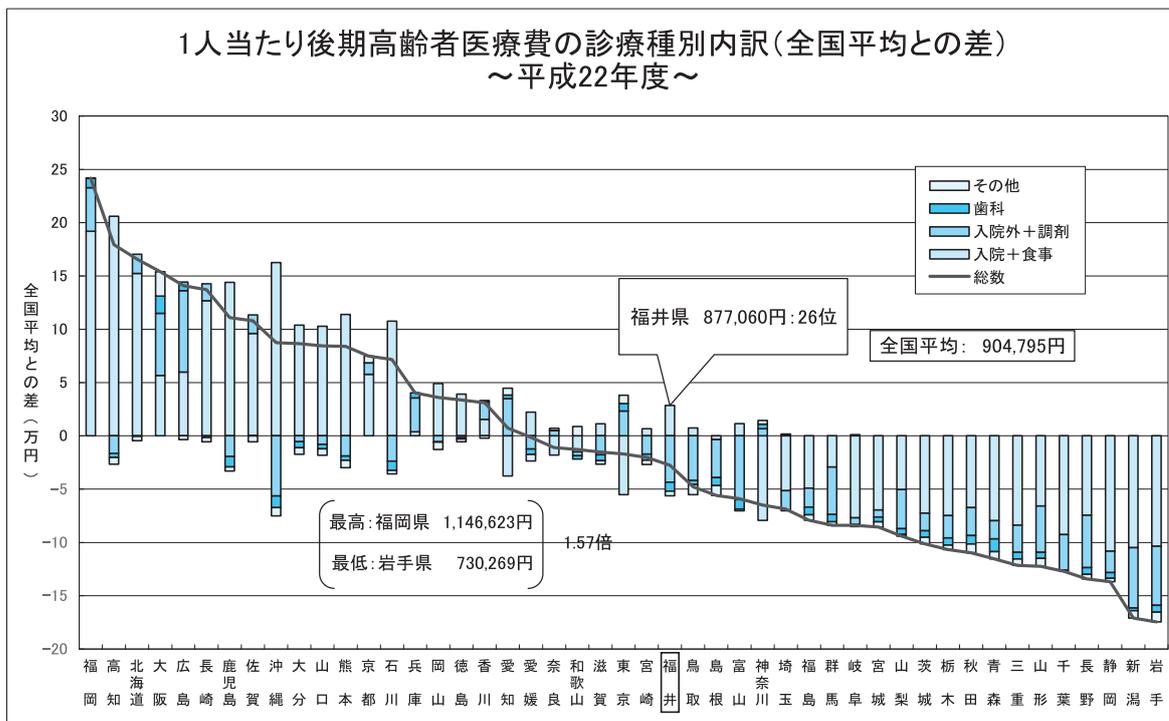


* 厚生労働省「老人医療事業年報」、「後期高齢者医療事業年報」

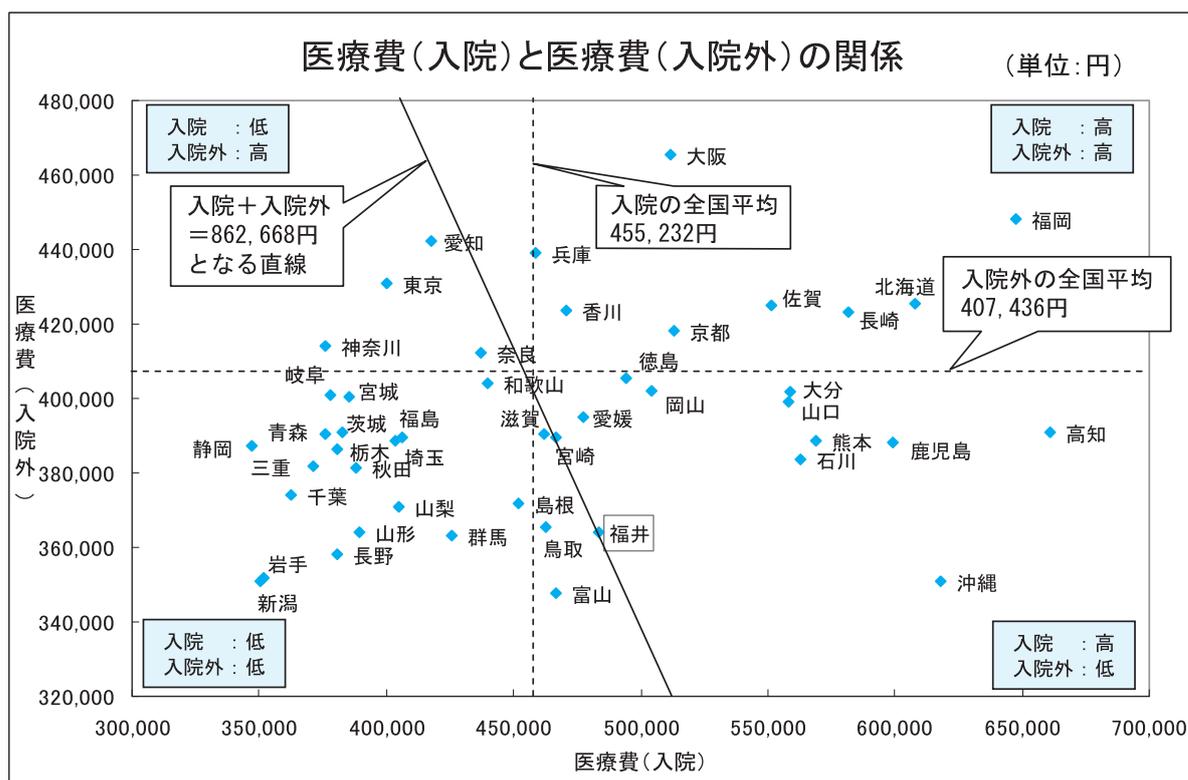
(2) 1人当たり後期高齢者医療費の全国比較

本県の1人当たり後期高齢者医療費は、全国26位と中位ですが、一人当たり入院医療費483,749円(全国17位)は、全国平均の455,232円を上回り、入院外や歯科は全国平均を下回っています。

全国状況をみると、1人当たり入院医療費の格差(最高の県の値と最低の県の値との差)の31万4千円は、入院外の格差の13万6千円の約2.3倍となっており、入院医療費が医療費の地域格差に大きく影響を与えているといえます。



* 厚生労働省「平成22年度後期高齢者医療事業年報」



* 厚生労働省「平成22年度後期高齢者医療事業年報」

(3) 1人当たり後期高齢者医療費(入院)の状況

本県の1人当たり入院医療費が全国平均より高い要因を分析すると、レセプト1件当たり日数(以下「1件当たり日数」という。)は全国平均並みであり、また1日当たりの医療費は全国平均を下回っていますが、受診率は全国平均を上回っています。

こうしたことから、本県は受診率(病院にかかる頻度)が高いことが医療費に大きく影響していると考えられます。

また、全国平均よりも1人当たり医療費の高い県では、1件当たり日数、受診率が高い傾向にあります。

■ 後期高齢者医療費(入院)に関する指標

	1人当たり医療費		1日当たり医療費		1件当たり日数		受診率	
	順位	円	順位	円	順位	日	順位	%
福井県	17位	483,749	28位	26,820	26位	18.5	16位	97.5
全国		455,232		27,768		18.6		88.2
高知県	1位	661,231	40位	24,910	2位	20.6	1位	128.7
福岡県	2位	647,252	36位	26,129	5位	20.1	3位	123.5
新潟県	46位	350,440	24位	27,343	30位	18.4	46位	69.7
静岡県	47位	347,033	8位	29,583	41位	17.6	47位	66.7

* 厚生労働省「平成22年度後期高齢者医療事業年報」

$$1 \text{ 人あたり後期高齢者医療費} = \frac{\text{後期高齢者医療費}}{\text{日数}} \times \frac{\text{日数}}{\text{件数(延べ患者数)}} \times \frac{\text{件数(延べ患者数)}}{\text{後期高齢者人口}}$$

$$1 \text{ 人あたり後期高齢者医療費} = \frac{\text{高い}}{\text{低い}} \times \frac{\text{平均並み}}{\text{高い}} \times \text{受診率}$$

(4) 1人あたり後期高齢者医療費（入院外）の状況

本県の1人あたり入院外医療費は全国41位と低く、1件当たり日数は全国平均並みですが、1日当たり医療費および受診率は全国平均より低くなっています。

また、全国平均よりも1人あたり医療費の高い県では、1件当たり日数、受診率が高い傾向にあります。

■ 後期高齢者医療費（入院外）に関する指標

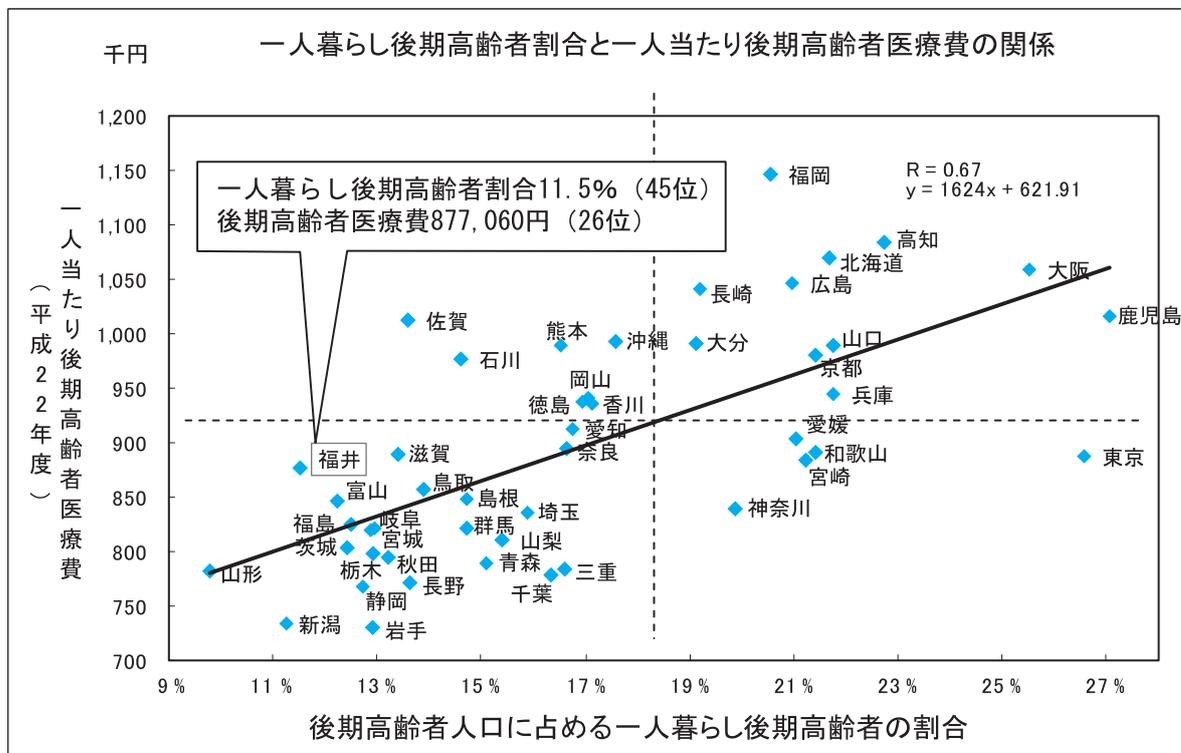
	1人あたり医療費		1日当たり医療費		1件当たり日数		受診率	
	順位	円	順位	円	順位	日	順位	%
福井県	41位	363,924	32位	11,687	17位	2.2	45位	1,419.8
全国		407,436		12,184		2.1		1,582.2
広島県	1位	483,638	40位	10,980	1位	2.6	5位	1,695.5
大阪府	2位	465,562	45位	10,689	2位	2.6	3位	1,702.4
新潟県	46位	350,728	9位	13,284	46位	1.8	35位	1,491.9
富山県	47位	347,687	17位	12,765	30位	2.0	47位	1,376.8

* 厚生労働省「平成22年度後期高齢者医療事業年報」

(5) 後期高齢者の生活の状況と後期高齢者医療費との関係

① 一人暮らし後期高齢者と後期高齢者医療費の関係

全国的にみて、後期高齢者に占める一人暮らし後期高齢者の割合と後期高齢者医療費には強い相関関係がみられます。(一人暮らし後期高齢者の状況は、資料編P4参照)

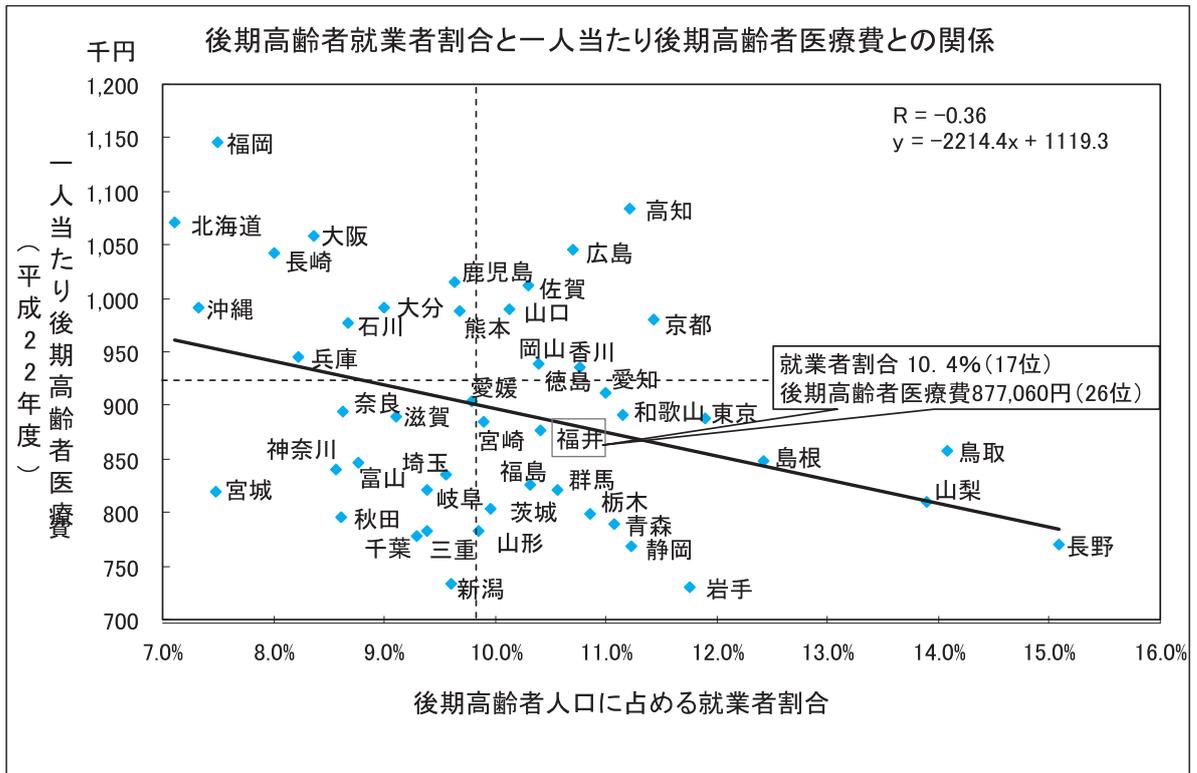


* 総務省「平成22年国勢調査」

* 厚生労働省「平成22年度後期高齢者医療事業年報」

② 後期高齢者の就業の状況と後期高齢者医療費の関係

後期高齢者の就業者割合と後期高齢者医療費の関係では、弱い相関関係がみられます。(後期高齢者の就業の状況は、資料編 P 5 参照)



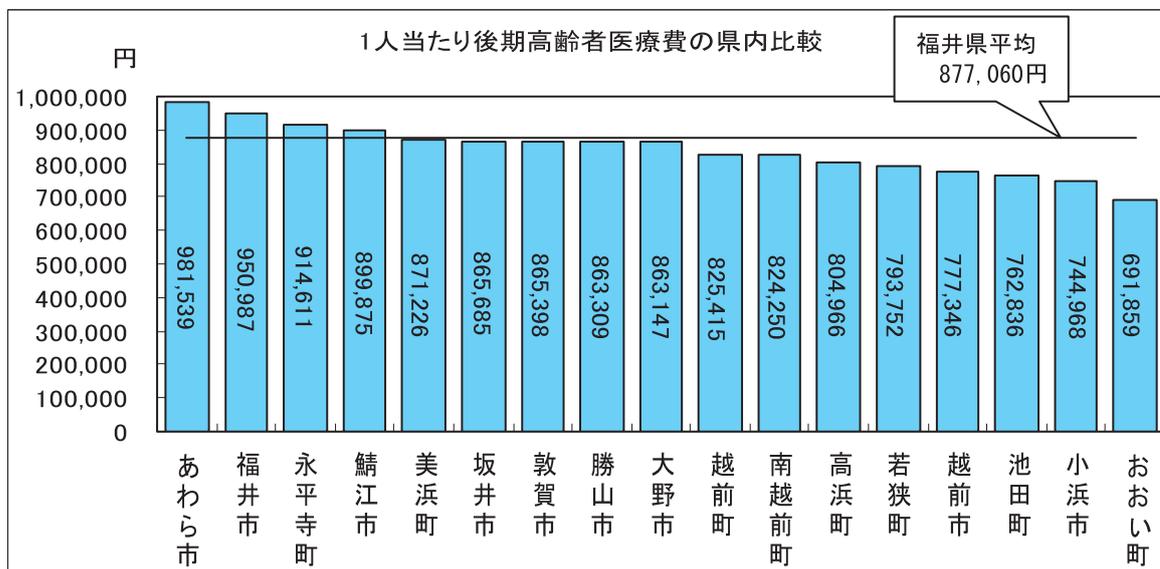
* 総務省「平成22年国勢調査」

* 厚生労働省「平成22年度後期高齢者医療事業年報」

2 県内市町、二次医療圏の後期高齢者医療費の状況

(1) 1人当たり後期高齢者医療費の状況

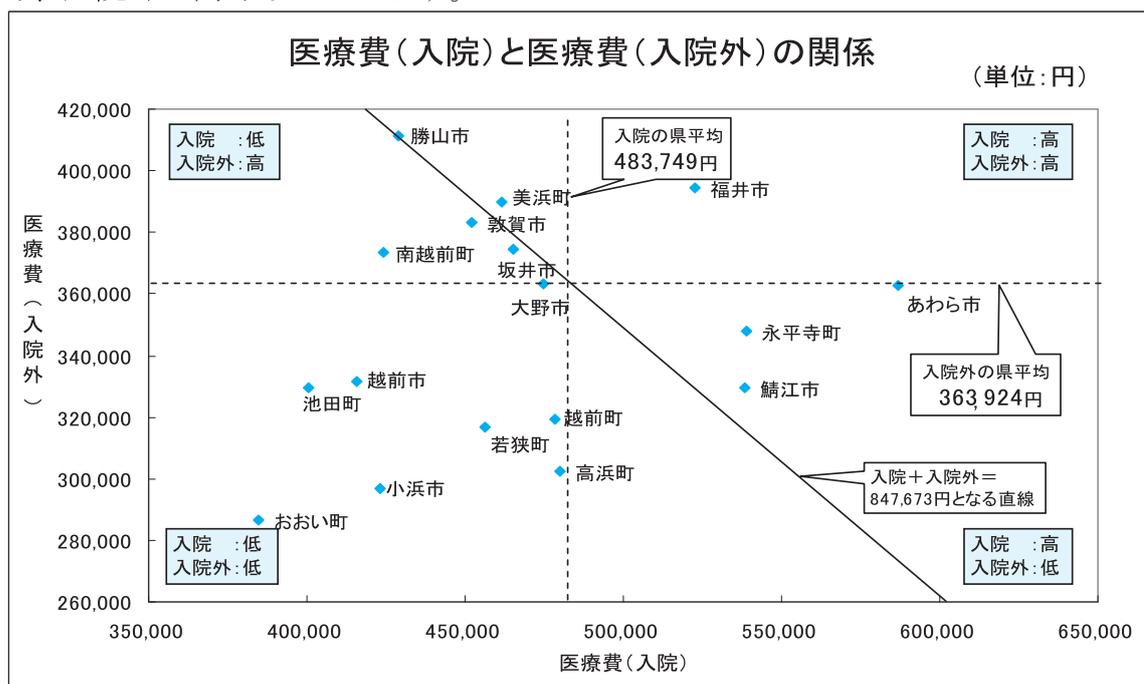
県内市町別の1人当たり医療費をみると、最高があわら市の98万2千円で最低がおおい町の69万2千円とその差は29万円となっています。



* 平成22年度福井県後期高齢者医療広域連合医療費データ

(2) 1人当たり後期高齢者医療費の入院と入院外の関係

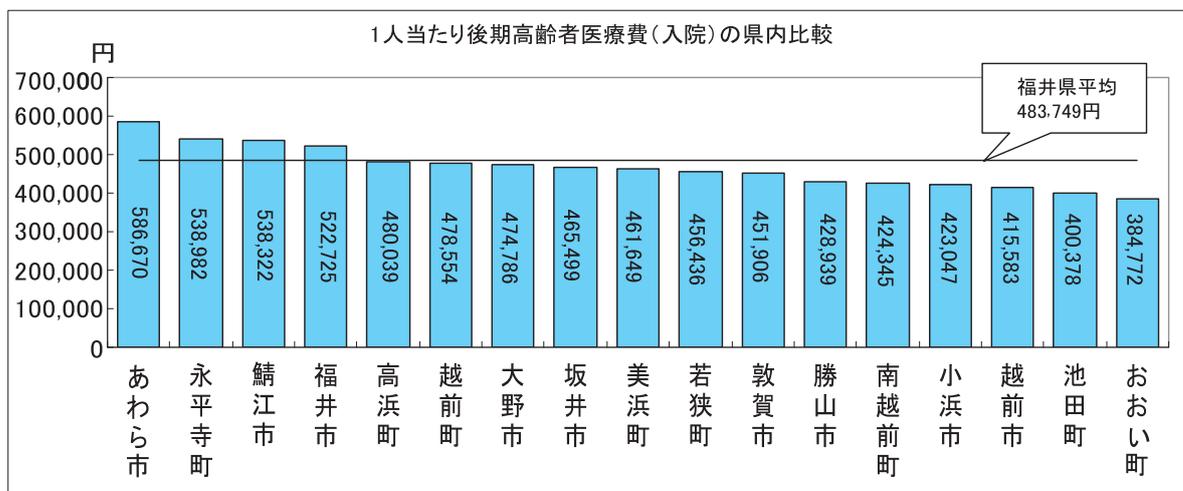
1人当たりの入院と入院外医療費の関係をみると、多くの医療機関が集中する福井市が入院、入院外とも県平均より高くなっています。一方、小浜市、おおい町などでは入院、入院外ともに低くなっています。また、勝山市では、入院が低く、入院外が高くなっています。



* 平成22年度福井県後期高齢者医療広域連合医療費データ

(3) 1人当たり後期高齢者医療費(入院)の状況

1人当たり入院医療費では、最高があわら市で58万7千円、最低がおおい町の38万5千円となっています。



* 平成22年度福井県後期高齢者医療広域連合医療費データ

1人当たり入院医療費を二次医療圏別にみると、嶺南医療圏を除き全国平均を上回っています。医療圏ごとでは、

- 福井・坂井医療圏は、1日当たりの入院費が県内で最も高く、受診率も県平均を上回っており、1人当たり医療費が県内で最も高くなっています。
- 奥越医療圏は、受診率が県内で最も高くなっていますが、1日当たり医療費、1件当たり日数がともに県内で最も低く、結果として1人当たり医療費は県平均を下回っています。
- 丹南医療圏は1日当たり医療費、1件当たりの日数がほぼ県平均となっていますが、受診率が県平均を下回っており、結果として1人当たり医療費は県平均を下回っています。
- 嶺南医療圏は、1件当たり日数が県内で最も高くなっていますが、受診率が最も低く、このため、1人当たり医療費は最も低くなっています。

■ 後期高齢者医療費（入院）に関する指標

医療圏	1人当たり 医療費	1日当たり 医療費	1件当たり 日数	受診率
	円	円	日	%
福井・坂井	516,535	27,316	18.5	102.1
奥越	455,304	25,924	17.1	102.4
丹南	462,263	26,773	18.6	92.8
嶺南	444,109	26,001	19.1	89.3
福井県	483,749	26,820	18.5	97.5
全国	455,232	27,768	18.6	88.2

注 太字は4医療圏で最も高い数値。以下同じ。

* 平成22年度福井県後期高齢者医療広域連合医療費データ

* 厚生労働省「平成22年度後期高齢者医療事業年報」

(4) 1人当たり後期高齢者医療費（入院外）の状況

入院外では、最高が勝山市の41万1千円、最低がおおい町の28万7千円となっています。



* 平成22年度福井県後期高齢者医療広域連合医療費データ

1人当たり入院外医療費を二次医療圏別にみると、4医療圏とも全国平均を下回っています。医療圏ごとでは、

- 福井・坂井医療圏は、1日当たり医療費が県平均を下回っていますが、医療機関が多く、医療機関にかかりやすいことから受診率は最も高く、このため、1人当たり医療費は県内で最も高くなっています。
- 奥越医療圏は、1日当たり医療費が県内で最も低く、受診率も県平均を下回っていますが、1件当たり日数が最も長くなっており、結果として1人当たり医療費は県平均を上回っています。
- 丹南医療圏は、1日当たり医療費が県平均を上回っていますが、1件当たり日数と受診率が県平均を下回っており、このため、1人当たり医療費は県内で最も低くなっています。

- 嶺南医療圏は、1日当たり医療費が県内で最も高いですが、1件当たり日数と受診率が最も低くなっており、結果として1人当たり医療費は県平均を下回っています。

■ 後期高齢者医療費（入院外）に関する指標

医療圏	1人当たり 医療費	1日当たり 医療費	1件当たり 日数	受診率
	円	円	日	%
福井・坂井	384,725	11,117	2.3	1,514.6
奥越	383,751	10,689	2.6	1,372.1
丹南	332,428	12,163	2.0	1,340.3
嶺南	341,456	13,719	1.9	1,308.6
福井県	363,924	11,687	2.2	1,419.8
全国	407,436	12,184	2.1	1,582.2

* 平成22年度福井県後期高齢者医療広域連合医療費データ

* 厚生労働省「平成22年度後期高齢者医療事業年報」

<参考> 二次医療圏別医療施設数および病床数

医療圏	病 院		一般診療所		歯 科 診療所
	施設数	病床数(床)	施設数	病床数(床)	
福井・坂井	37	6,721	340	980	163
奥越	6	546	36	204	21
丹南	18	2,033	115	364	58
嶺南	11	2,081	100	106	42
県 計	72	11,381	591	1,654	284

* 厚生労働省「平成23年医療施設調査」

IV 国民健康保険と後期高齢者医療のレセプトデータにみる 本県医療費の状況

平成23年5月診療分の県内市町の国民健康保険と後期高齢者医療のレセプトデータをもとに、本県の医療費の状況を見てみます。

なお、国民健康保険組合、全国健康保険協会、健康保険組合、共済組合加入の被保険者は除かれており、本県全体の医療の状況を表すものではありません。（ただし、年齢階層別の数値は、概ね県全体の状況を反映するものと考えられます。）

■ 平成23年5月レセプトデータの概要

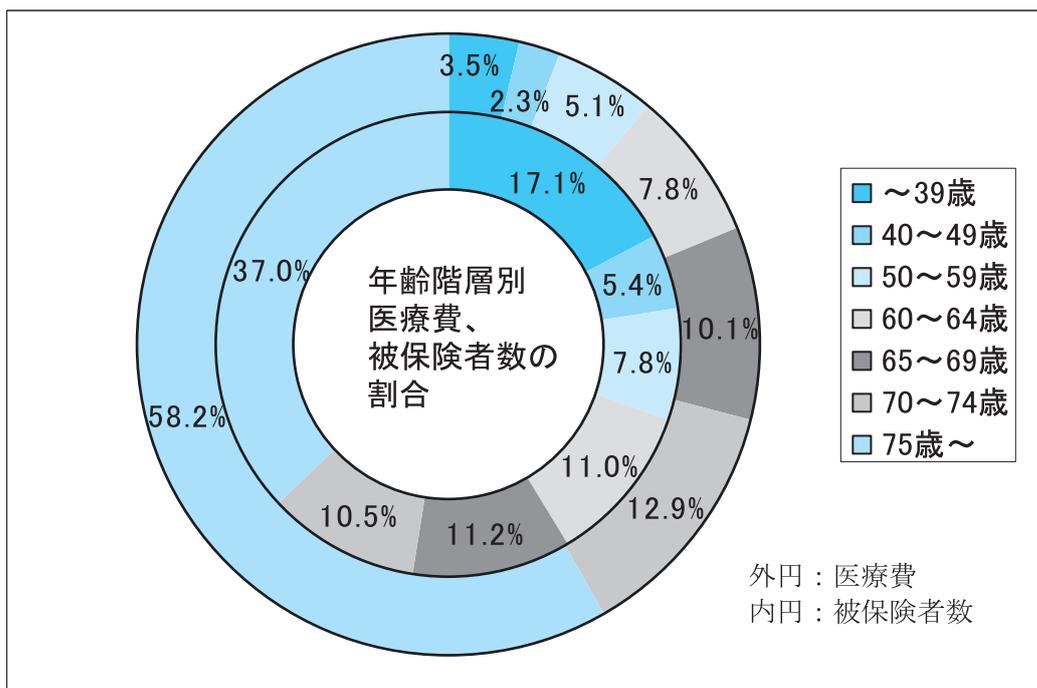
	全体	入院	入院外
医療費	114億3,202万円	61億6,090万円	52億7,112万円
レセプト件数	302,360件	13,036件	289,324件
被保険者数	299,537人		

注 医療費は、入院に係る診療費および入院外（外来）に係る診療費をいい、訪問看護費、食事療養・生活療養費、調剤費、移送費を含みません。

1 年齢階層別医療費状況

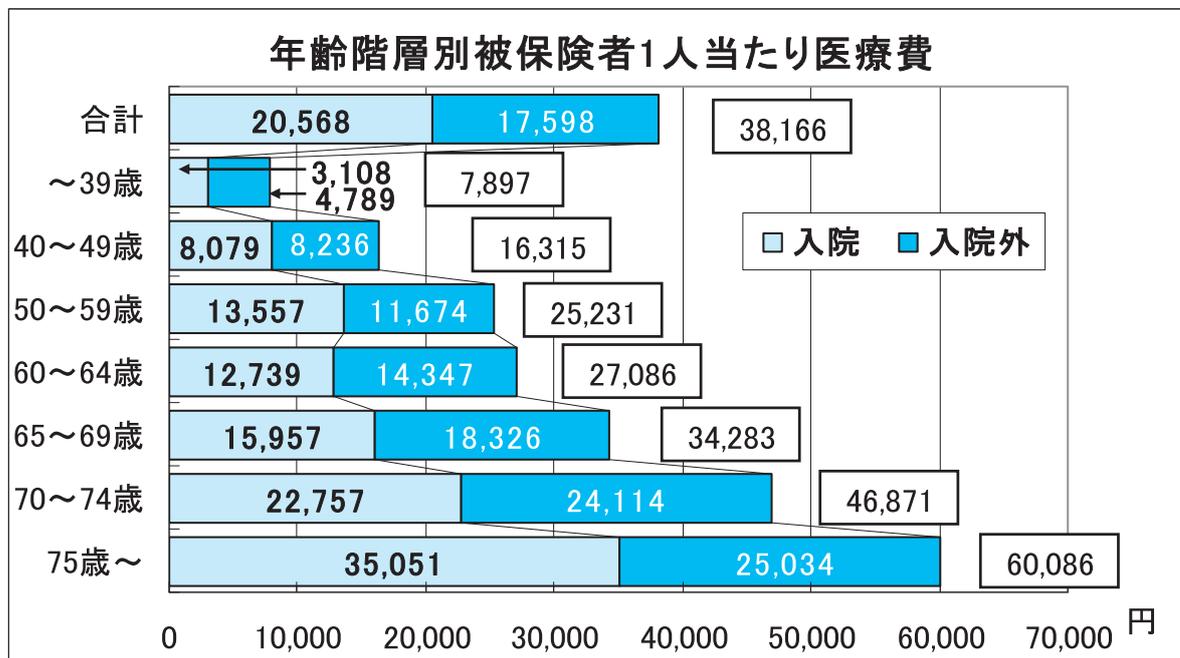
県内国民健康保険・後期高齢者医療の被保険者約30万人のうち、37.0%が後期高齢者となっており、その医療費は全体の58.2%を占めています。

65歳以上の高齢者でみると、被保険者数は58.7%、医療費で81.2%を占めています。



2 1人当たり医療費

被保険者1人当たり医療費（平成23年5月の1か月分の医療費。以下Vまで同じ。）は、全体では38,166円/月ですが、39歳以下では7,897円、75歳以上では、60,086円と約8倍近い開きがあります。



年齢階層別被保険者1人当たり医療費

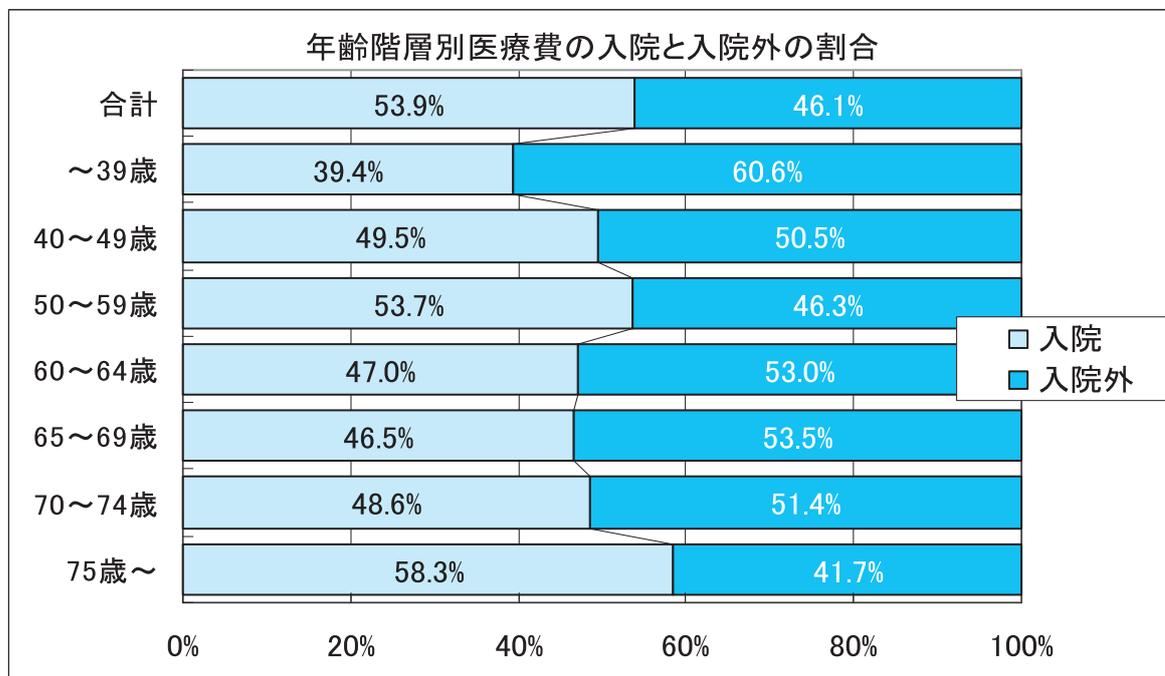
年齢階層に属する被保険者の医療費

= _____

年齢階層に属する被保険者数

(したがって、患者1人当たりの医療費とは異なります。)

次に年齢階層別医療費を入院と入院外別で見ると、全体では入院が53.9%、入院外が46.1%とあまり差がありません。39歳未満は39.4%と入院の割合が低く、60歳代で一旦は入院の割合が下がっているものの、年齢が上がるに伴い、入院の比率が高くなる傾向があり、75歳以上では入院が入院外を上回っています。



3 入院医療費の状況

〔年齢階層別〕

被保険者1人当たり入院医療費を40歳以上の年齢階層ごとに1日当たり医療費、1件当たり日数、受診率に分けてみると次のようになります。

○ 「40～64歳」の階層

受診率が低いため、1人当たり医療費は低いのですが、1件当たり日数は一番長くなっています。なかなか医療機関にはかかれないが、一旦受診を始めると長くなるという傾向が見られます。

○ 「65～74歳」の階層

1人当たり医療費や受診率は平均的ですが、1日当たり医療費はこの階層が一番高くなっています。40～64歳の層が加齢によりさらに重症化や合併症を起こしていると推測できます。

○ 「75歳以上」の階層

1人当たり医療費は、この階層が一番高くなっていますが、これは受診率の高さ、1件当たり日数の長さが原因と考えられます。しかし、1日当たり医療費は、低くなっています。

入院	1人当たり 医療費	1日当たり 医療費	1件当たり 日数	受診率
	円	円	日	%
～39歳	3,108	27,114	12.3	0.9
40～64歳	11,957	23,934	20.0	2.5
65～74歳	19,246	31,103	16.7	3.7
75歳以上	35,051	24,999	18.6	7.5
県平均	20,568	25,924	18.2	4.4

注 太字は年齢階層で最も高い数値。以下同じ。

■ 「被保険者1人当たり入院医療費」、「1日当たり医療費」、「1日当たり日数」「受診率」の関係

$$\begin{aligned}
 \text{被保険者一人当たり入院医療費} &= \frac{\text{医療費}}{\text{日数}} \times \frac{\text{日数}}{\text{件数(延べ患者数)}} \times \frac{\text{件数(延べ患者数)}}{\text{被保険者数}} \\
 &= \text{1日当たり医療費} \times \text{1件当たり日数} \times \text{受診率}
 \end{aligned}$$

〔二次医療圏別〕

入院医療費は、福井・坂井医療圏の1人当たり医療費が最も高く、この原因は、1日当たり医療費の高さにあります。

1人当たり医療費の最も低い嶺南医療圏では、1件当たり日数が長いものの、1日当たり医療費と受診率が低くなっています。

入院	1人当たり 医療費	1日当たり 医療費	1件当たり 日数	受診率
	円	円	日	%
福井・坂井	21,385	26,811	18.1	4.4
奥越	21,370	25,964	17.1	4.8
丹南	19,790	24,966	18.5	4.3
嶺南	19,149	24,841	18.9	4.1
県平均	20,568	25,924	18.2	4.4

4 入院外医療費の状況

〔年齢階層別〕

入院外医療費を年齢階層別にみると、加齢に伴って1人当たり医療費は上がっていきます。これは、1件当たり日数の他、特に受診率が高くなっていくためですが、40歳以上では1日当たり医療費はあまり変わりません。

入院＋入院外でみると1日当たり医療費は年齢とともに増加していきますので、重症化や合併症の併発により入院へ移行していくものと考えられます。

入院外	1人当たり 医療費	1日当たり 医療費	1件当たり 日数	受診率
	円	円	日	%
～39歳	4,789	6,330	1.6	47.9
40～64歳	12,114	9,431	1.8	70.1
65～74歳	21,126	9,204	2.0	117.3
75歳以上	25,034	9,421	2.1	124.2
県平均	17,598	9,158	2.0	96.6

〔二次医療圏別〕

入院外医療費は、奥越医療圏の1人当たり医療費が最も高く、この原因は、1件当たり日数の長さにあります。

1人当たり医療費の最も低い嶺南医療圏では、1件当たり日数が短く受診率も低くなっています。

入院外	1人当たり 医療費	1日当たり 医療費	1件当たり 日数	受診率
	円	円	円	%
福井・坂井	18,867	9,027	2.1	101.7
奥越	19,674	8,795	2.3	96.8
丹南	16,477	9,622	1.9	91.1
嶺南	14,918	9,202	1.8	90.7
県平均	17,598	9,158	2.0	96.6

5 入院+入院外医療費の状況

〔年齢階層別〕

入院と入院外の合計医療費を年齢階層別に見ると、1人当たり医療費、1日当たり医療費、1件当たり日数、受診率全てで75歳以上が最も高くなっています。年齢が高くなるにつれて病院にかかる回数が増え、また受診にかかる医療費や日数が多くなっています。

入院+入院外	1人当たり 医療費	1日当たり 医療費	1件当たり日数	受診率
	円	円	日	%
～39歳	7,897	9,064	1.8	48.9
40～64歳	24,071	13,492	2.5	72.6
65～74歳	40,373	13,852	2.4	121.0
75歳以上	60,086	14,801	3.1	131.3
県平均	38,166	14,057	2.7	100.9

〔二次医療圏別〕

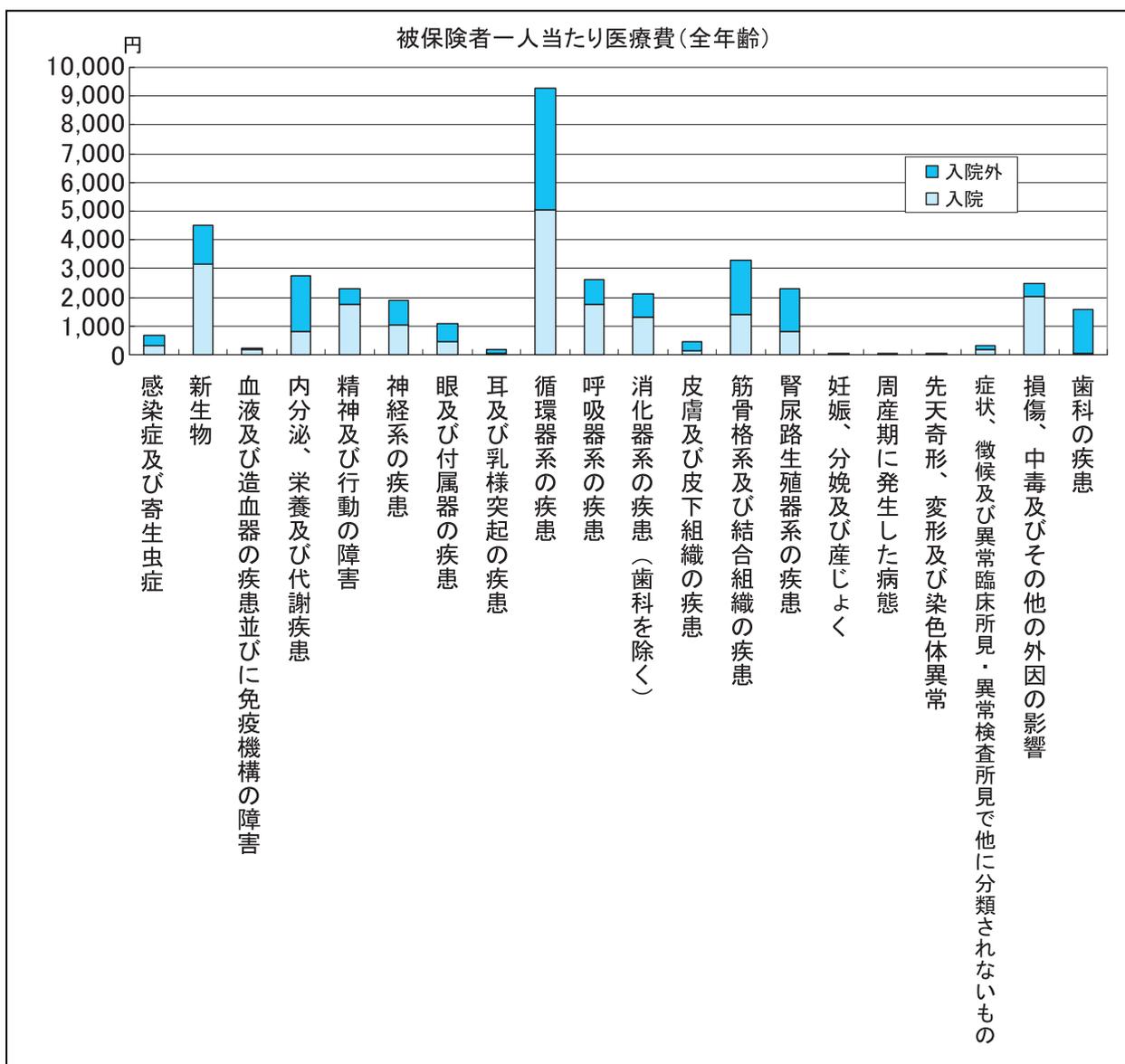
入院と入院外の合計医療費は、奥越医療圏の1人当たり医療費が最も高く、この原因は、1件当たり日数の長さにあります。

1人当たり医療費が最も低い嶺南医療圏では、1件当たり日数が短く、受診率も低くなっています。

入院+入院外	1人当たり 医療費	1日当たり 医療費	1件当たり 日数	受診率
	円	円	円	%
福井・坂井	40,251	13,939	2.7	106.1
奥越	41,044	13,413	3.0	101.6
丹南	36,266	14,478	2.6	95.3
嶺南	34,067	14,242	2.5	94.8
県平均	38,166	14,057	2.7	100.9

■医療費の上位を占める疾病（大分類）

		医療費（千円）	全医療費に占める割合（%）	件数（件）
1	循環器の疾患	2,779,945	24.3	75,128
2	新生物	1,354,409	11.8	10,430
3	筋骨格系及び結合組織の疾患	990,805	8.7	34,891
4	内分泌、栄養及び代謝障害	827,621	7.2	29,201
5	呼吸器系の疾患	781,388	6.8	19,924
6	損傷、中毒及びその他の外因の影響	739,301	6.5	9,122
7	精神及び行動の障害	684,431	6.0	11,486
8	腎尿路生殖器系の疾患	681,651	6.0	7,934
9	消化器系の疾患	631,329	5.5	15,520
10	神経系の疾患	573,345	5.0	8,405



6 疾病別医療費の状況

(1) 疾病別（大分類）医療費の状況

平成23年5月分の国民健康保険と後期高齢者医療に係るレセプトデータから、被保険者の疾病を「社会保険表章用疾病分類表」の大分類（19分類）に従い分析を行いました。

分析に当たり、「消化器系の疾患」については、「う蝕」（虫歯）など歯科関係の疾病を除外し、「歯科の疾患」として独立した分類を設けました。

感染症及び寄生虫症
新生物
血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害
内分泌、栄養及び代謝障害
精神及び行動の障害
神経系の疾患
眼及び附属器の疾患
耳及び乳様突起の疾患
循環器の疾患
呼吸器系の疾患
<u>消化器系の疾患（<u>歯科を除く。</u>）</u>
皮膚及び皮下組織の疾患
筋骨格系及び結合組織の疾患
腎尿路生殖器系の疾患
妊娠、分娩及び産褥
周産期に発生した病態
先天奇形、変形及び染色体異常
症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの
損傷、中毒及びその他の外因の影響
<u>歯科の疾患</u>

注 は、「社会保険表章用疾病分類表」と異なる本調査の独自の分類です。

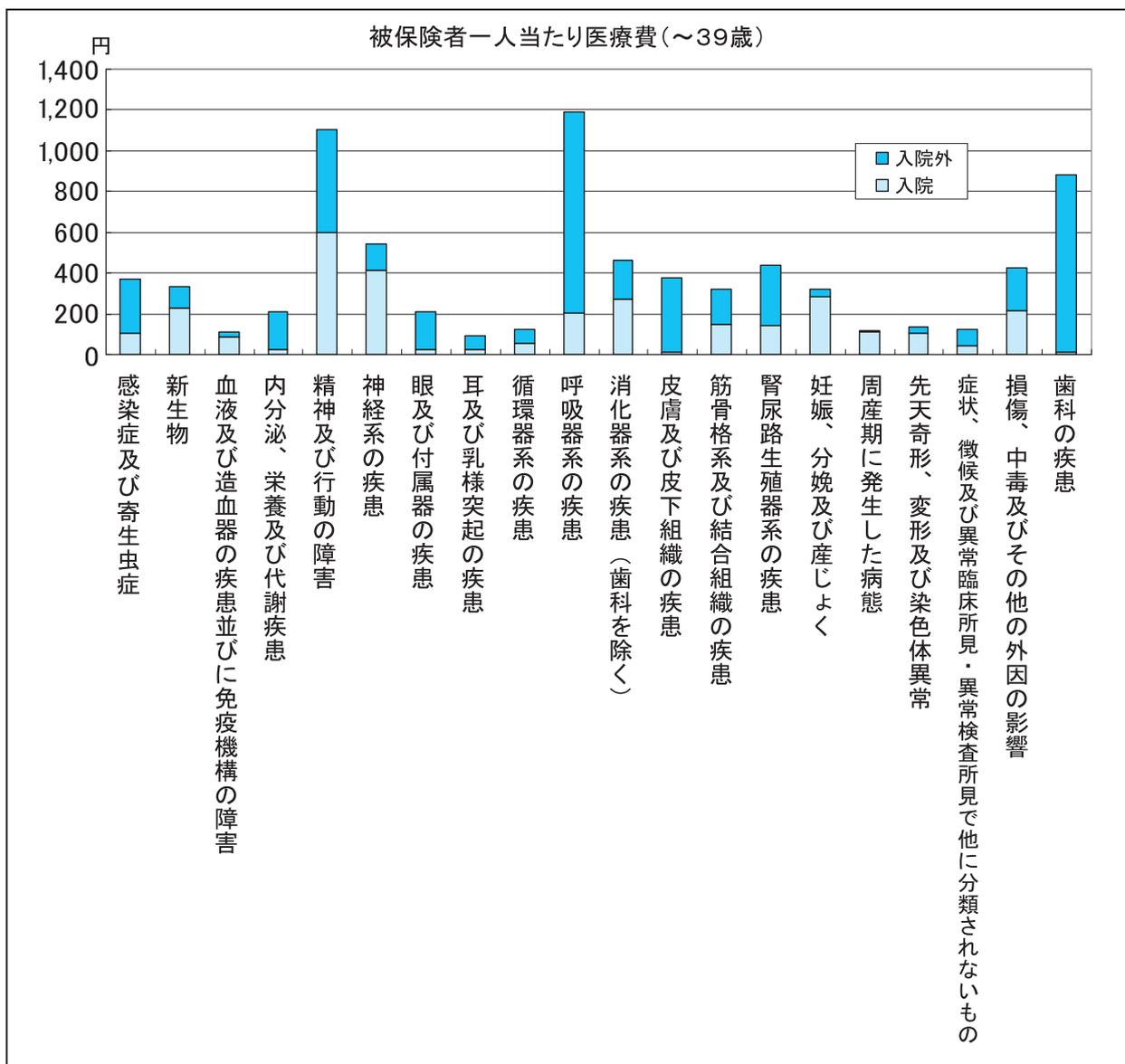
① 全体の状況（全年齢を通じた医療費の構造）

平成23年5月の1か月間の医療費が最も高いのは、「循環器の疾患」で、27億7,995万円（1人当たり医療費：9,281円、入院：5,033円、入院外：4,248円）で全体の24.3%を占めています。次いで「新生物」が13億5,441万円（1人当たり医療費：4,522円、入院：3,146円、入院外：1,376円）、「筋骨格系及び結合組織の疾患」9億9,081万円（1人当たり医療費：3,308円、入院：1,395円、入院外：1,913円）となっており、この3疾病で、全体の5割弱（44.8%）を占めています。

これを1人当たり医療費で年齢階層別にみると

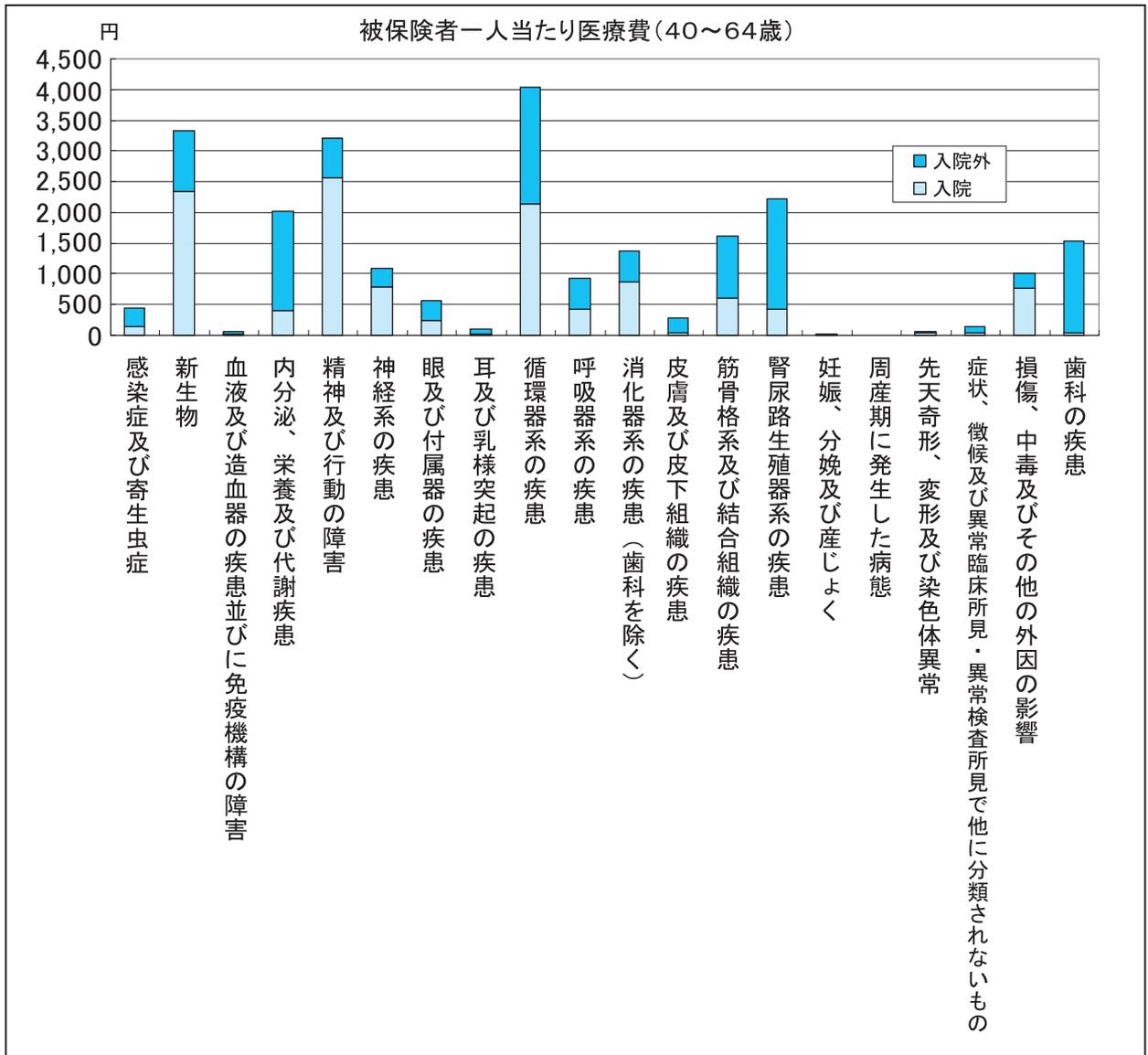
② 「～39歳」の階層

この層では、「呼吸器系の疾患」が最も高く、1,193円（入院201円、入院外992円）、次いで「精神及び行動の障害」1,104円（入院598円、入院外506円）、「歯科の疾患」882円（入院15円、入院外867円）となっており、この3疾病で全体の40.3%を占めています。



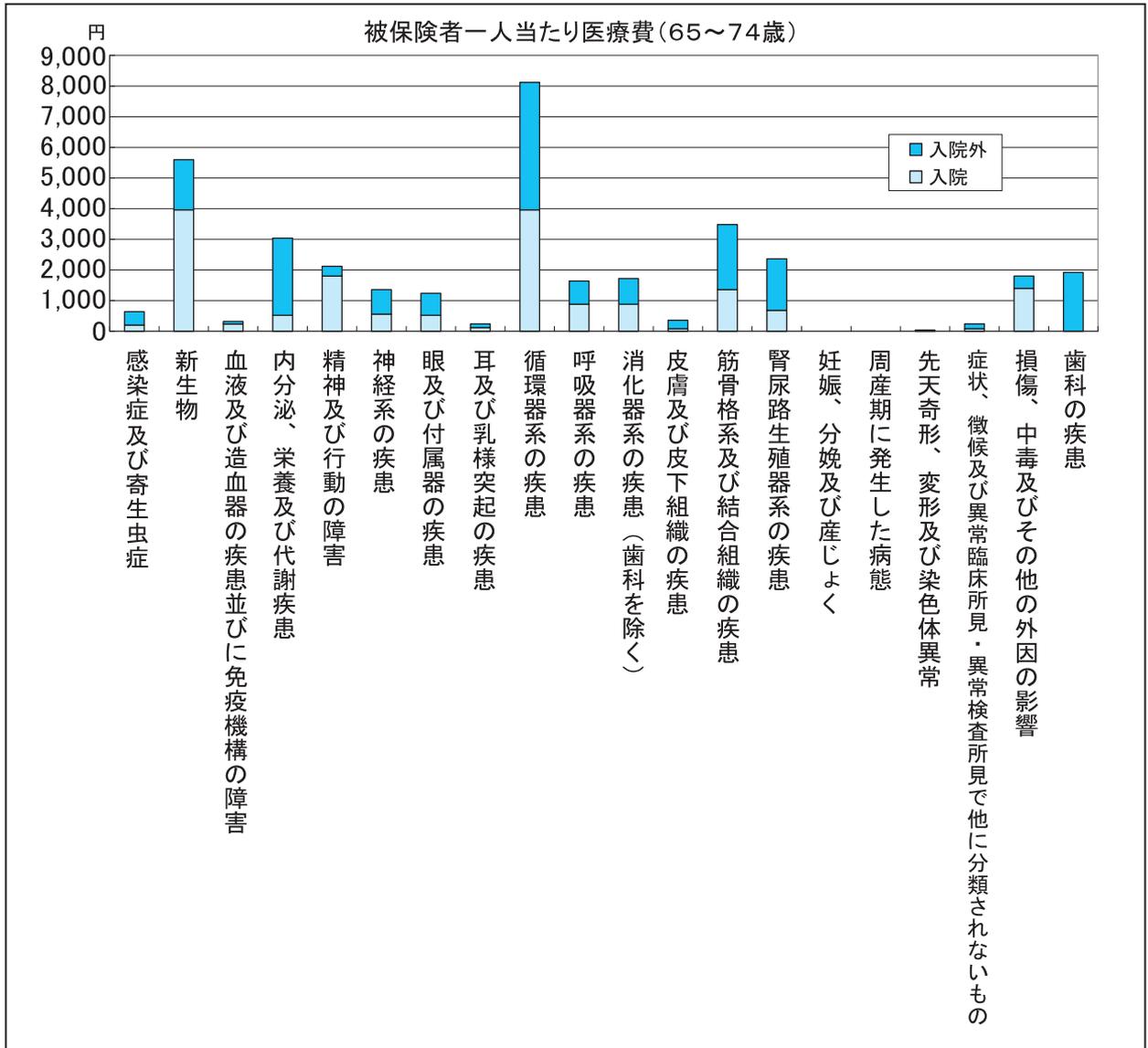
③ 「40～64歳」の階層

この層では、「循環器の疾患」が最も高く、4,043円（入院2,147円、入院外1,896円）、次いで「新生物」3,330円（入院2,338円、入院外992円）、「精神及び行動の障害」3,211円（入院2,559円、入院外651円）となっており、この3疾病で全体の43.9%を占めています。



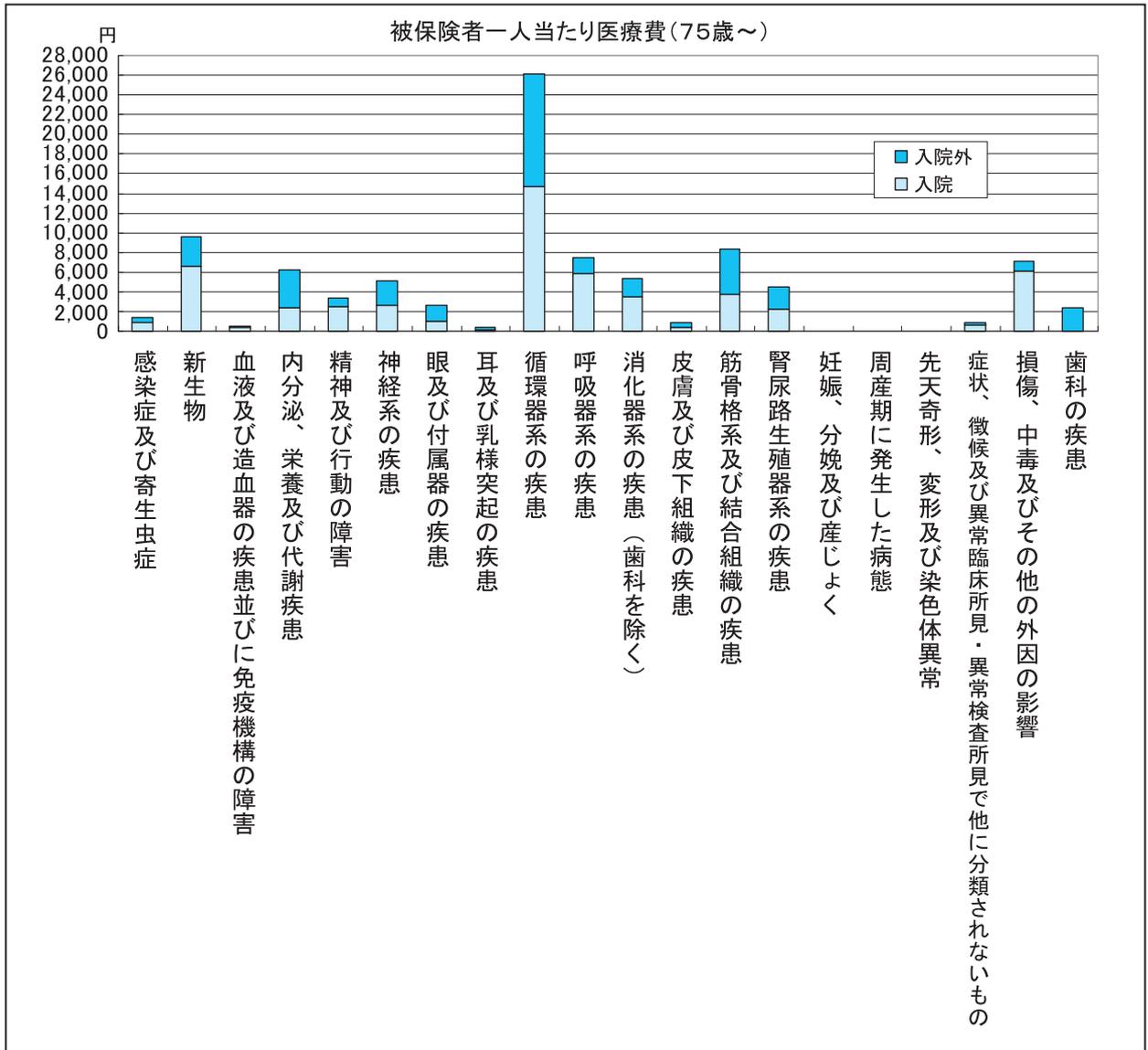
④ 「65～74歳」の階層（前期高齢者）

この層では、「循環器の疾患」が8,137円（入院3,960円、入院外4,178円）と最も高く、この年齢層の医療費の22.4%を占めています。次いで「新生物」5,619円（入院3,979円、入院外1,640円）、「筋骨格系及び結合組織の疾患」3,476円（入院1,342円、入院外2,134円）となっており、この3疾病で全体の47.5%を占めています。



⑤ 「75歳～」の階層（後期高齢者）

この層では、「循環器系の疾患」が最も多く、次に「新生物」が続くことは、65～74歳の層と同じですが、「循環器系の疾患」では26,138円（入院14,681円、入院外11,457円）と高く、この年齢層の全疾病の28.4%を占めています。「筋骨格系及び結合組織の疾患」は8,364円（入院3,711円、入院外4,653円）で3位となっており、この3疾病で47.9%を占めています。



(2) 疾病別（中分類）医療費の状況

平成23年5月分の国民健康保険と後期高齢者医療のレセプトデータと「社会保険表章用疾病分類表」（中分類：119分類）による疾病区分から、年齢階層別の被保険者の疾病と医療費の状況を探りました。

社会保険表章用疾病分類表

I 感染症及び寄生虫症	X 呼吸器系の疾患
腸管感染症	急性鼻咽頭炎[かぜ]＜感冒＞
結核	急性咽頭炎及び急性扁桃炎
主として性的伝播様式をとる感染症	その他の急性上気道感染症
皮膚及び粘膜の病変を伴うウイルス疾患	肺炎
ウイルス肝炎	急性気管支炎及び急性細気管支炎
その他のウイルス疾患	アレルギー性鼻炎
真菌症	慢性副鼻腔炎
感染症及び寄生虫症の続発・後遺症	急性又は慢性と明示されない気管支炎
その他の感染症及び寄生虫症	慢性閉塞性肺疾患
II 新生物	喘息
胃の悪性新生物	その他の呼吸器系の疾患
結腸の悪性新生物	X I 消化器系の疾患
直腸S状結腸移行部及び直腸の悪性新生物	う蝕
肝及び肝内胆管の悪性新生物	歯肉炎及び歯周疾患
気管、気管支及び肺の悪性新生物	その他の歯及び歯の支持組織の障害
乳房の悪性新生物	胃潰瘍及び十二指腸潰瘍
子宮の悪性新生物	胃炎及び十二指腸炎
悪性リンパ腫	アルコール性肝疾患
白血病	慢性肝炎(アルコール性のものを除く)
その他の悪性新生物	肝硬変(アルコール性のものを除く)
良性新生物及びその他の新生物	その他の肝疾患
III 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	胆石症及び胆のう炎
貧血	膝疾患
その他の血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	その他の消化器系の疾患
IV 内分泌、栄養及び代謝疾患	X II 皮膚及び皮下組織の疾患
甲状腺障害	皮膚及び皮下組織の感染症
糖尿病	皮膚炎及び湿疹
その他の内分泌、栄養及び代謝疾患	その他の皮膚及び皮下組織の疾患
V 精神及び行動の障害	X III 筋骨格系及び結合組織の疾患
血管性及び詳細不明の認知症	炎症性多発性関節障害
精神作用物質使用による精神及び行動の障害	関節症
統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害	脊椎障害(脊椎症を含む)
気分[感情]障害(躁うつ病を含む)	椎間板障害
神経症性障害、ストレス関連障害及び身体表現性障害	頸腕症候群
知的障害＜精神遅滞＞	腰痛症及び坐骨神経痛
その他の精神及び行動の障害	その他の脊柱障害
VI 神経系の疾患	肩の傷害＜損傷＞
パーキンソン病	骨の密度及び構造の障害
アルツハイマー病	その他の筋骨格系及び結合組織の疾患
てんかん	X IV 腎尿路生殖器系の疾患
脳性麻痺及びその他の麻痺性症候群	糸球体疾患及び腎尿管間質性疾患
自律神経系の障害	腎不全
その他の神経系の疾患	尿路結石症
VII 眼及び付属器の疾患	その他の腎尿路系の疾患
結膜炎	前立腺肥大(症)
白内障	その他の男性生殖器の疾患
屈折及び調節の障害	月経障害及び閉経周辺期障害
その他の眼及び付属器の疾患	乳房及びその他の女性生殖器の疾患
VIII 耳及び乳様突起の疾患	X V 妊娠、分娩及び産じょく
外耳炎	流産
その他の外耳疾患	妊娠高血圧症候群
中耳炎	単胎自然分娩
その他の中耳及び乳様突起の疾患	その他の妊娠、分娩及び産じょく
メニエール病	X VI 周産期に発生した病態
その他の内耳疾患	妊娠及び胎児発育に関連する障害
その他の耳疾患	その他の周産期に発生した病態
IX 循環器系の疾患	X VII 先天奇形、変形及び染色体異常
高血圧性疾患	心臓の先天奇形
虚血性心疾患	その他の先天奇形、変形及び染色体異常
その他の心疾患	X VIII 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの
くも膜下出血	症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの
脳内出血	X IX 損傷、中毒及びその他の外因の影響
脳梗塞	骨折
脳動脈硬化(症)	頭蓋内損傷及び内臓の損傷
その他の脳血管疾患	熱傷及び腐食
動脈硬化(症)	中毒
痔核	その他の損傷及びその他の外因の影響
低血圧(症)	
その他の循環器系の疾患	

注 太字は、資料編P36以降で取り上げる生活習慣病です。

① 全体の状況

1人当たり医療費が高い疾病をみると、高血圧性疾患、糖尿病、脳梗塞、腎不全といった生活習慣病が上位を占めています。

また、上位10疾病で全体の医療費の43.4%を占めています。

一方、1件当たり医療費は、腎不全などの重症化した生活習慣病のほか、白血病や悪性リンパ腫の悪性新生物が上位を占めています。

なお、1件当たり医療費とは、その疾病で治療をしている患者1人当たりの医療費とも言え、高度な医療が提供される腎不全、白血病や悪性リンパ腫などの悪性新生物の疾病では、患者数が少なくても1件当たり医療費は高くなる傾向にあります。

こうしたことから、医療費の適正化には、全医療費に占める割合が高い生活習慣病などの疾病の予防に積極的に取り組むことが効果的であるといえます。

■ 医療費の上位を占める疾病（中分類）

順位	疾病名	医療費	1人当たり医療費	全医療費に占める割合	疾病名	1件当たり医療費
1位	高血圧性疾患	千円 1,013,951	円 3,385	8.9%	妊娠高血圧症候群	円 478,310
2位	糖尿病	560,034	1,870	4.9%	白血病	408,746
3位	脳梗塞	537,421	1,794	4.7%	腎不全	320,759
4位	腎不全	468,628	1,565	4.1%	頭蓋内損傷及び内臓の損傷	273,357
5位	骨折	460,040	1,565	4.0%	肺炎	268,090
6位	その他の悪性新生物	446,023	1,489	3.9%	悪性リンパ腫	218,643
7位	その他の心疾患	428,715	1,431	3.8%	脳性麻痺及びその他の麻痺性症候群	215,824
8位	統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害	380,676	1,271	3.3%	肝及び肝内胆管の悪性新生物	209,354
9位	虚血性心疾患	364,123	1,216	3.2%	気管、気管支及び肺の悪性新生物	199,755
10位	関節症	293,552	980	2.6%	脳内出血	194,734

注 太字は、資料編P36以降で取り上げる生活習慣病

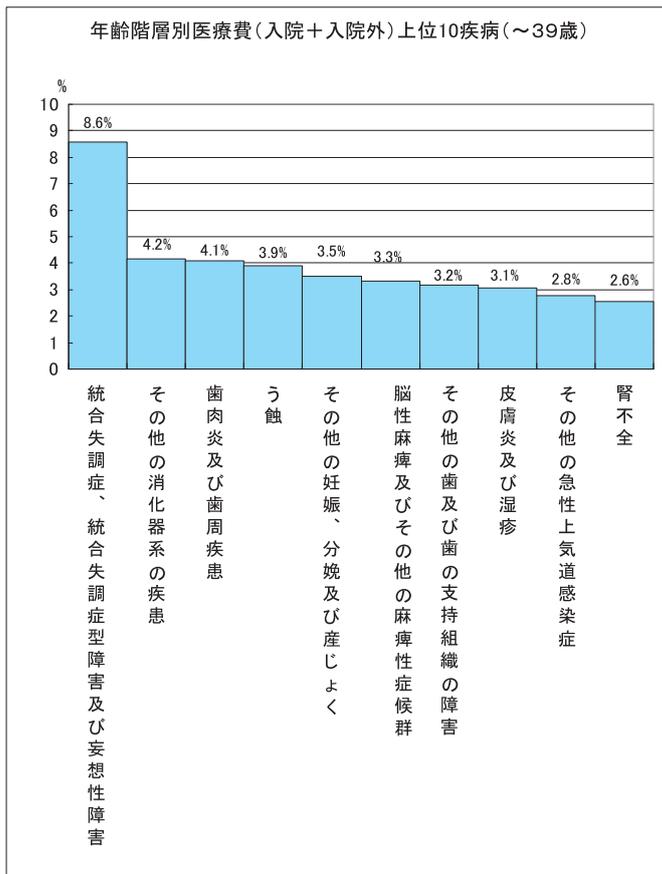
全医療費に占める疾病別の医療費の割合を入院、入院外別でみたものを以下に示します。

■ 入院、入院外別医療費の割合

	入 院		入 院 外	
1位	脳梗塞	7.0%	高血圧性疾患	16.4%
2位	骨折	6.8%	糖尿病	7.4%
3位	統合失調症、統合失調症型障害及び妄想型障害	5.3%	腎不全	6.4%
4位	その他の心疾患	5.2%	その他の歯及び歯の支持組織の障害	3.4%
5位	その他の悪性新生物	4.8%	その他の内分泌、栄養及び代謝疾患	3.4%
6位	肺炎	4.0%	関節症	3.2%
7位	虚血性心疾患	3.7%	歯肉炎及び歯周疾患	3.0%
8位	その他の消化器系の疾患	3.6%	その他の悪性新生物	2.8%
9位	その他の呼吸器系の疾患	3.2%	脊椎障害(脊椎症を含む)	2.8%
10位	糖尿病	2.8%	虚血性心疾患	2.5%

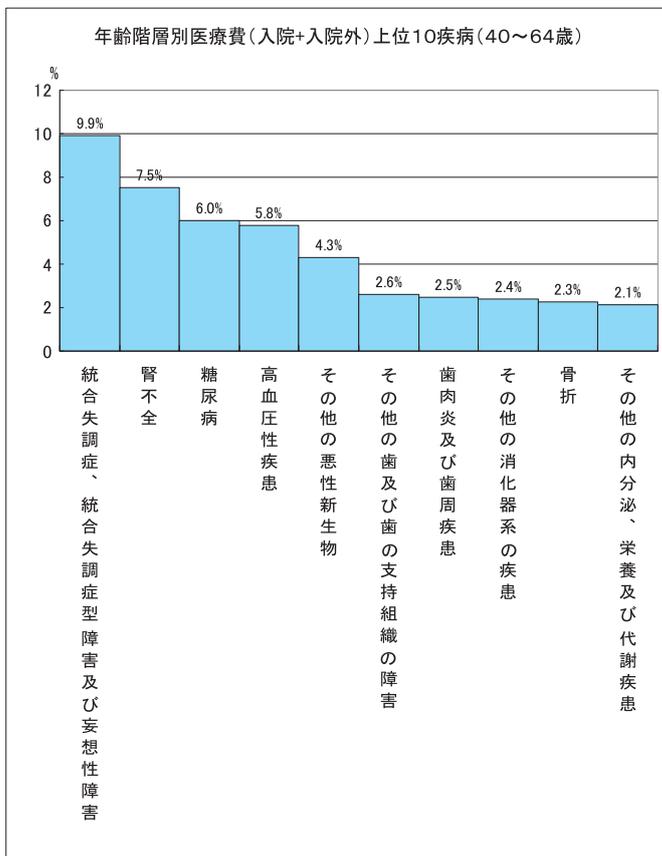
注 %は、入院、入院外の医療費をそれぞれ100とした場合の数値
太字は、資料編P 36以降で取り上げる生活習慣病

② 「～39歳」の階層



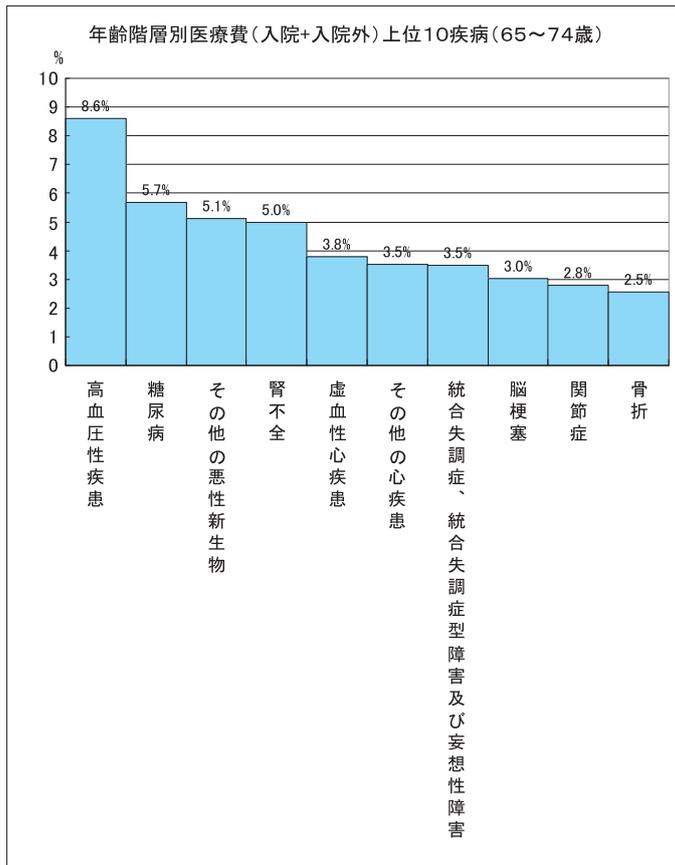
この階層では、「統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害」の精神科関係や「その他の消化器系の疾患」の消化器関係、「歯肉炎及び歯周疾患」、「う蝕」(虫歯)の歯科関係の疾患が多くなっています。また、この年齢層の特徴として産婦人科関係の疾病もみられます。

③ 「40～64歳」の階層



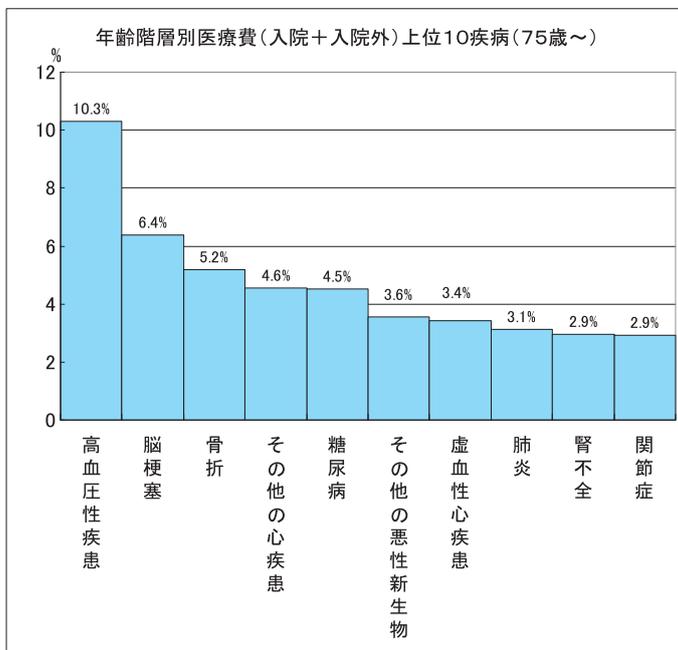
この階層では、「統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害」の精神科関係が最も多いことは39歳以下の層と同じですが、2位以下に「腎不全」、「糖尿病」および「高血圧性疾患」といった生活習慣病が並んでいます。

④ 「65～74歳」の階層（前期高齢者）



この階層では、「高血圧性疾患」、「糖尿病」、「腎不全」、「虚血性心疾患」、「その他の心疾患」、「脳梗塞」の生活習慣病が多く、これらで約30%を占めています。

⑤ 「75歳～」の階層（後期高齢者）



この階層では、前期高齢者と同様、「高血圧性疾患」などの生活習慣病が多くなっていますが、高齢者の転倒事故が原因と思われる「骨折」も3位となっています。

V 生活習慣病の状況

1 本県の生活習慣病に係る医療費の状況

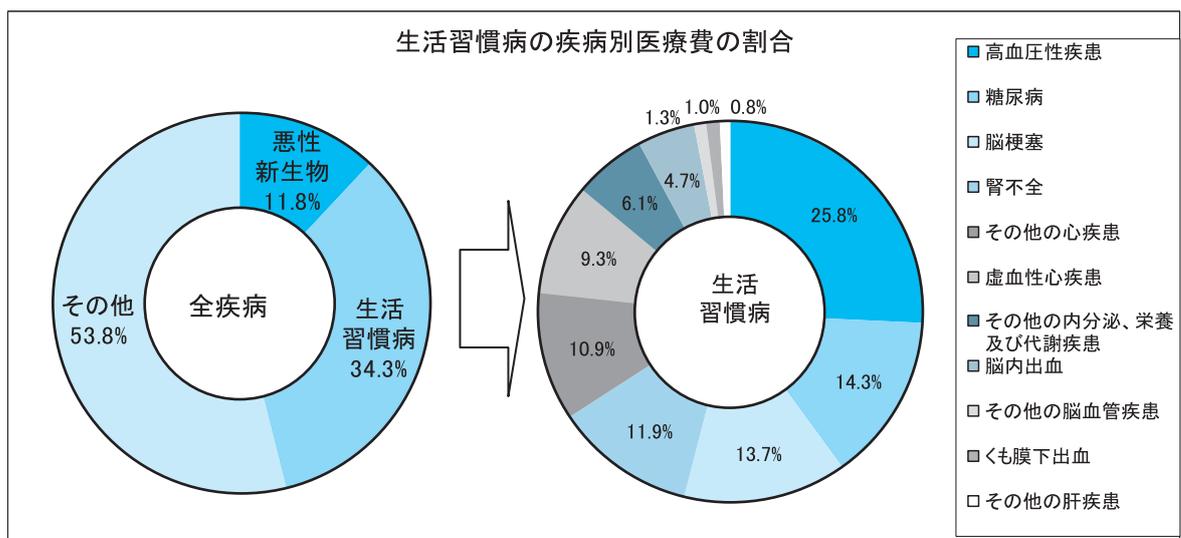
IVの分析に用いたレセプトデータをもとに、「社会保険表章用疾病分類表」(119分類)のうち、次の11分類を生活習慣病として、医療費の状況をみます。

糖尿病
その他の内分泌，栄養及び代謝疾患
高血圧性疾患
虚血性心疾患
その他の心疾患
くも膜下出血
脳内出血
脳梗塞
その他の脳血管疾患
その他の肝疾患
腎不全

(1) 生活習慣病全体の状況

全疾病では、生活習慣病が34.3%、次いで悪性新生物が11.8%となっており、生活習慣病にかかる医療費が大きく占めています。

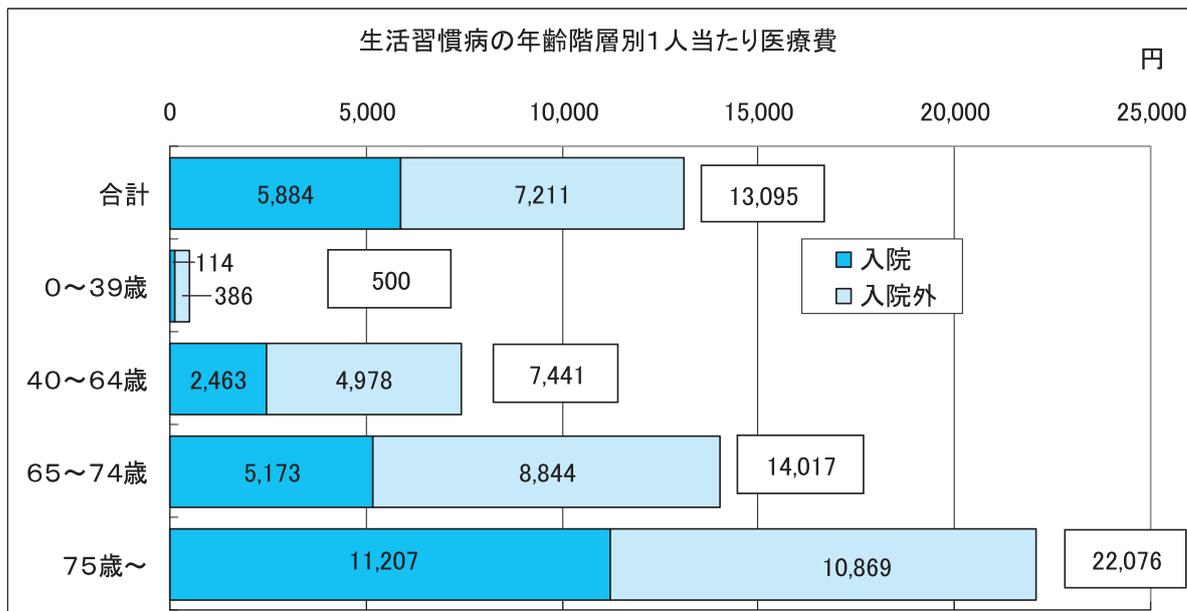
その内訳は、「高血圧性疾患」が最も多く25.8%、次いで「糖尿病」、「脳梗塞」となり、この上位3疾病で生活習慣病の53.8%を占めます。



国民健康保険と後期高齢者医療の被保険者1人当たりの生活習慣病の医療費をみると、本県では、13,095円ですが、年齢が上がるに従い医療費が増大し、75歳以上の階層では、22,076円と平均の約1.7倍となっています。

75歳以上と65～74歳の階層を比較すると約1.6倍医療費が高くなっています。

また、入院と入院外との比較では年齢が上がるに従い、入院の割合が高くなっています。



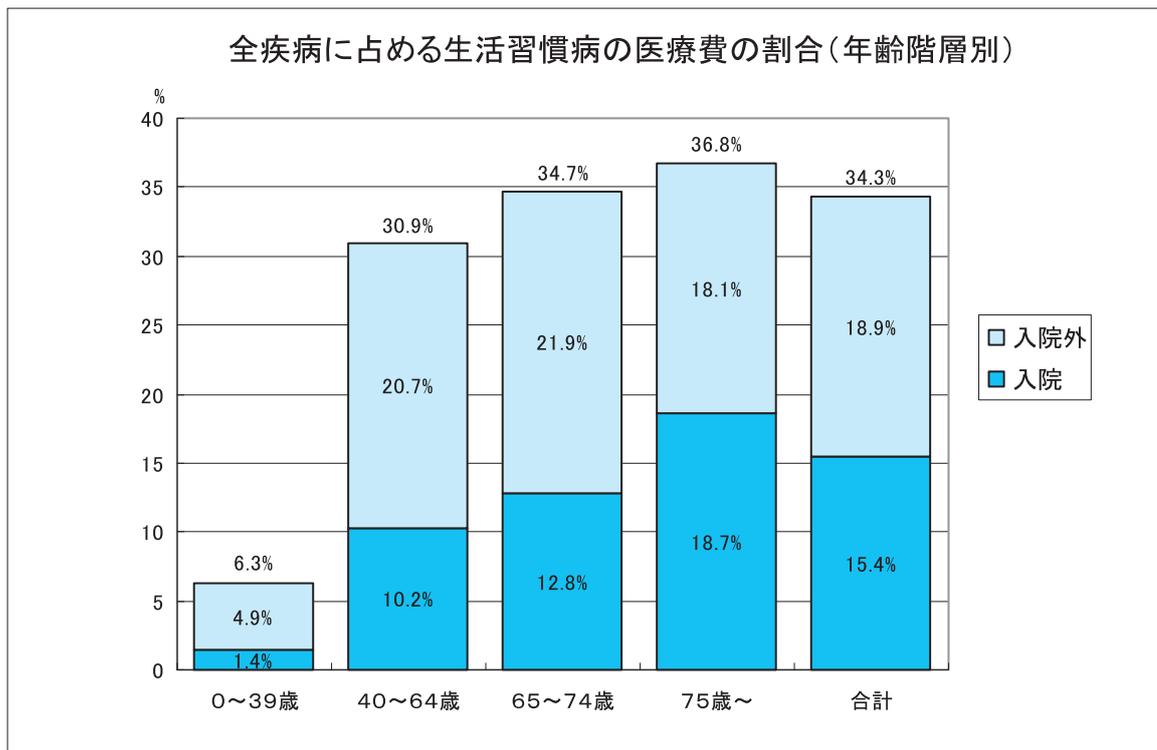
生活習慣病について、40歳以上の各年齢階層の1日当たり医療費、1件当たり日数、受診率についてみると、入院、入院外とも年齢が上がるにつれて受診率は高くなり、また、1件当たり日数は75歳以上の階層が最も長くなっています。しかし、1日当たりの医療費は、入院では65～74歳、入院外では、40～64歳の階層が最も高くなっています。これは40～64歳で通院していた患者が65～74歳に移り重症化、合併症併発等により入院へ移行するためと考えられます。

■ 生活習慣病、年齢階層別、1人当たり医療費等

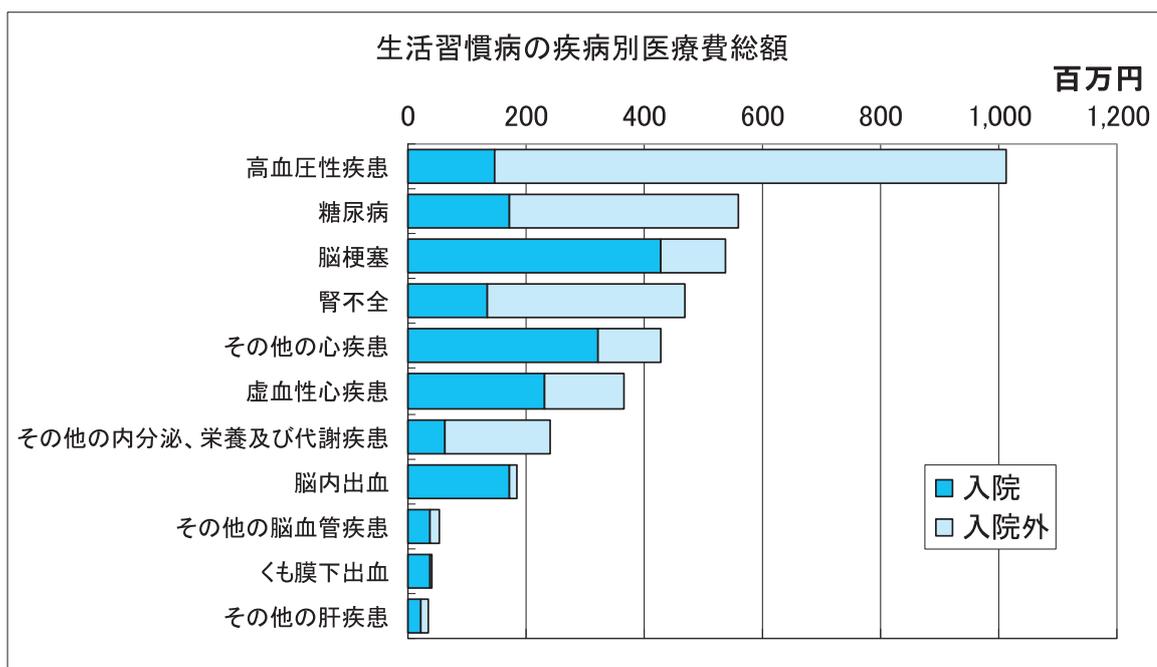
入院	1人当たり医療費	1日当たり医療費	1件当たり日数	受診率
	円	円	日	%
～39歳	114	38,188	8.5	0.0%
40～64歳	2,463	36,731	16.8	0.4%
65～74歳	5,173	43,183	15.5	0.8%
75歳以上	11,207	25,006	19.7	2.3%
県平均	5,884	28,219	18.8	1.1%

注 太字は、40歳以上の年齢階層で最も高い数値。

全疾病に占める生活習慣病の医療費の割合を年齢階層別にみると、39歳以下の階層では6.3%ですが、40歳以上になるとその割合が高くなり、75歳以上では36.8%を占めるまでになります。



生活習慣病のうち、入院医療費の占める割合の高い疾病は、脳梗塞、その他の心疾患、虚血性心疾患の順となっており、一方、入院外医療費の占める割合の高い疾病は高血圧性疾患、糖尿病、腎不全の順となっています。

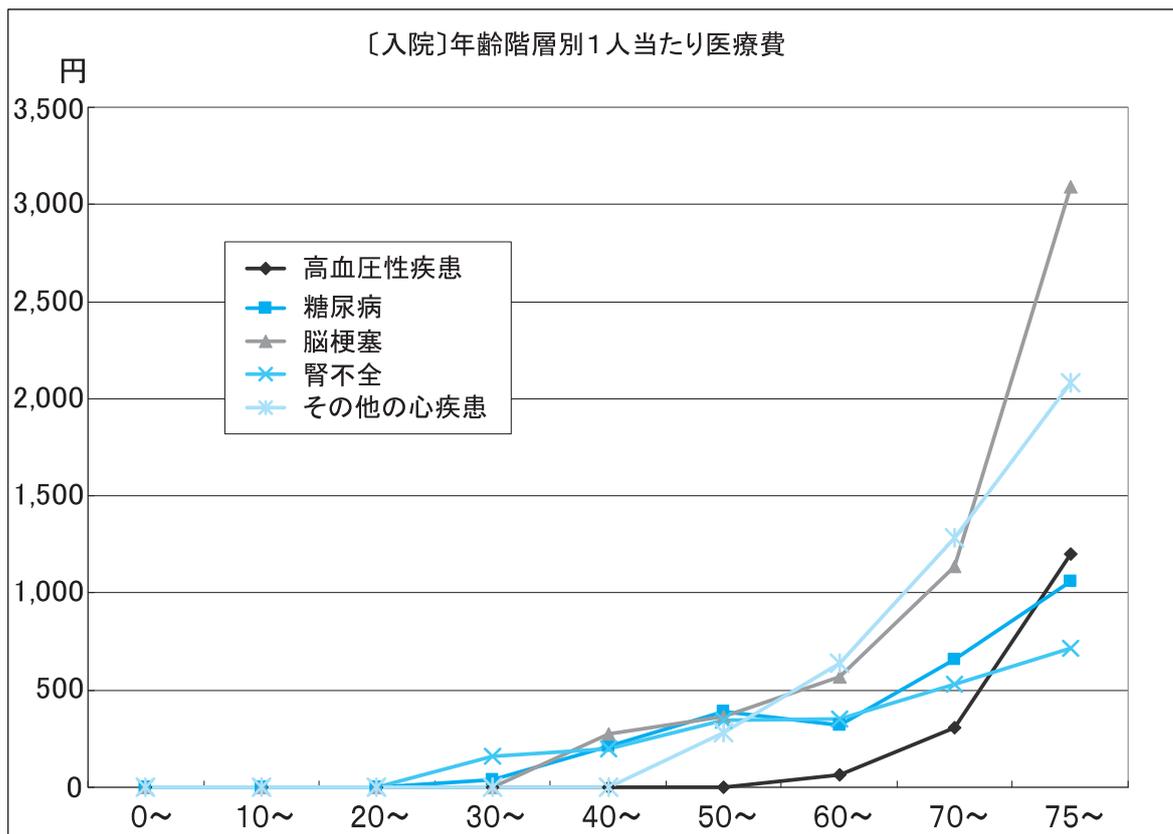


(3) 高齢期に重症化する生活習慣病

① 入院医療費

生活習慣病のうち医療費の高い5疾病（高血圧性疾患、糖尿病、脳梗塞、腎不全、その他の心疾患）の入院医療費について、1人当たり医療費の年齢階層毎の変化をみると、60歳代からどの疾病についても医療費が増加しています。このことから潜在的な重症化が進むと考えられる40歳代から重点的に対策を行う必要があります。

また、70歳以降については、脳梗塞、その他の心疾患、高血圧性疾患の医療費が急増しています。



入院外	1人当たり 医療費	1日当たり 医療費	1件当たり 日数	受診率
	円	円	日	%
～39歳	386	16,106	1.9	1.3%
40～64歳	4,978	13,849	1.7	21.0%
65～74歳	8,844	12,072	1.7	43.6%
75歳以上	10,869	10,887	2.0	50.1%
県平均	7,211	11,642	1.9	33.3%

注 太字は、40歳以上の年齢階層で最も高い数値。

(2) 二次医療圏別の生活習慣病の医療費の状況

二次医療圏別にみると、1人当たり医療費では、生活習慣病全体で奥越医療圏が最も高く、嶺南医療圏が最も低くなっています。

■ 二次医療圏別、生活習慣病1人当たり医療費

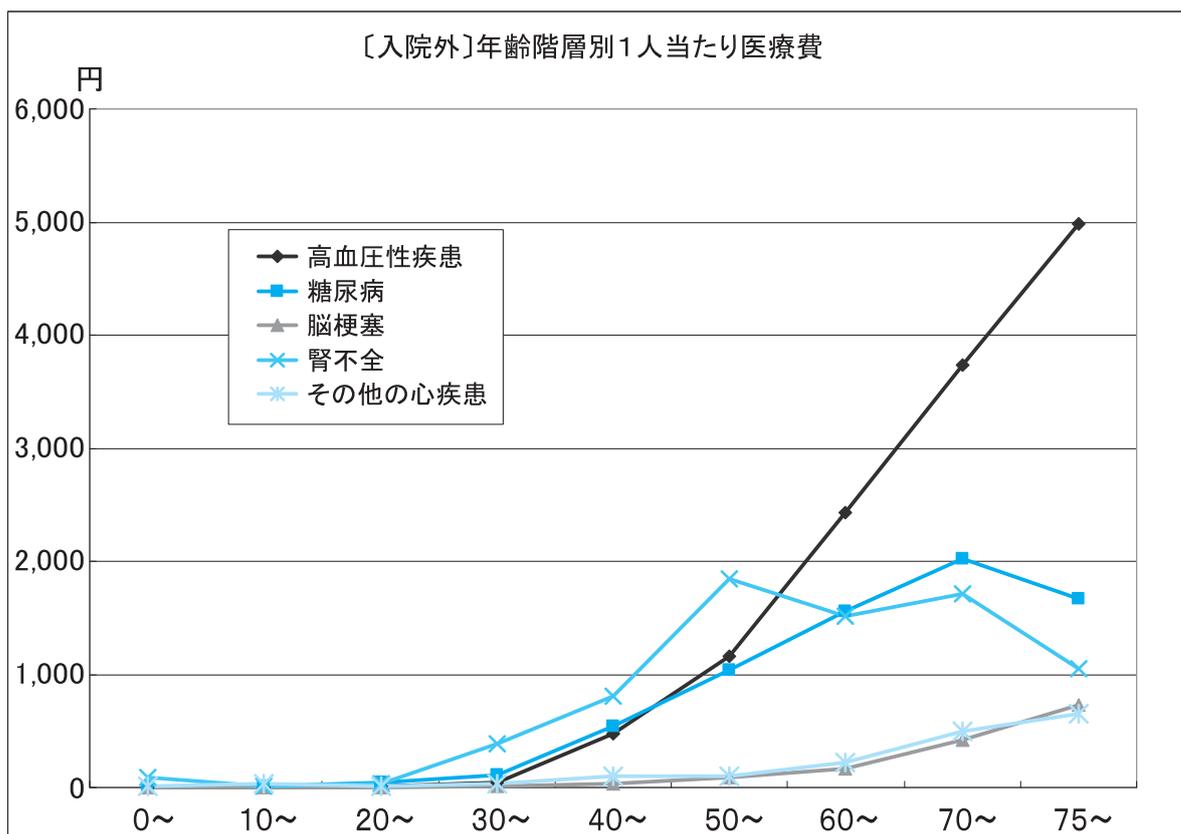
(単位：円)

	生活習慣病計	糖尿病	高血圧性疾患	虚血性心疾患	くも膜下出血	脳内出血	脳梗塞	腎不全
福井・坂井	13,805	2,092	3,431	1,260	158	679	1,932	1,530
奥越	14,437	1,946	4,564	731	98	590	2,134	1,504
丹南	12,556	1,627	3,105	1,264	152	529	1,951	1,951
嶺南	11,409	1,583	3,090	1,262	66	575	1,116	1,336
県計	13,095	1,870	3,385	1,216	134	615	1,794	1,565

注 「生活習慣病計」には、この表に記載されていない疾病を含む。

② 入院外医療費

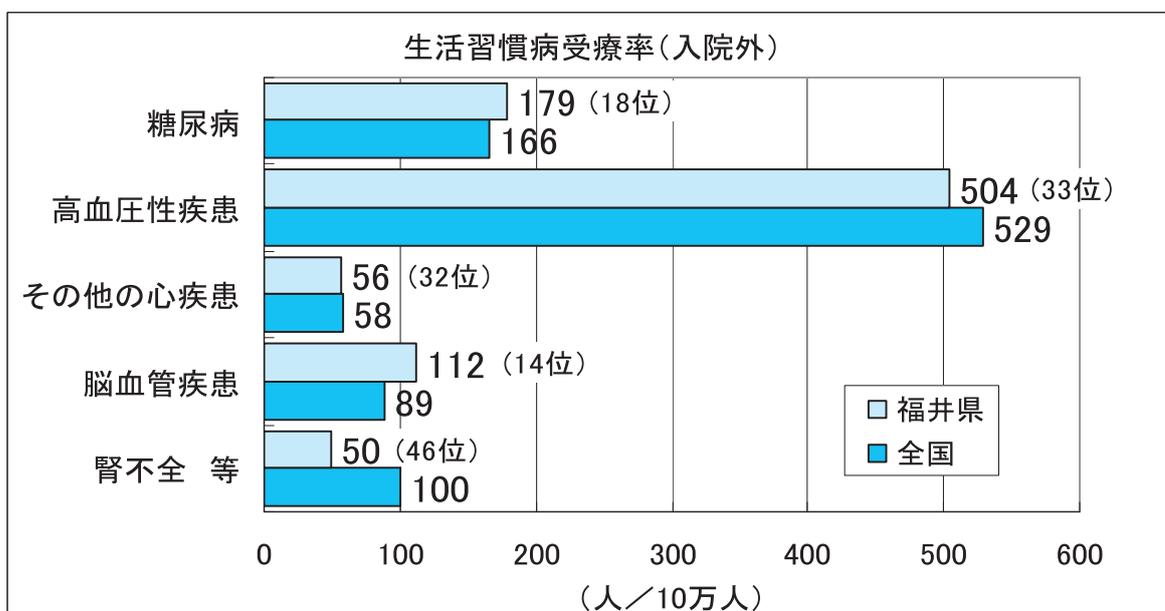
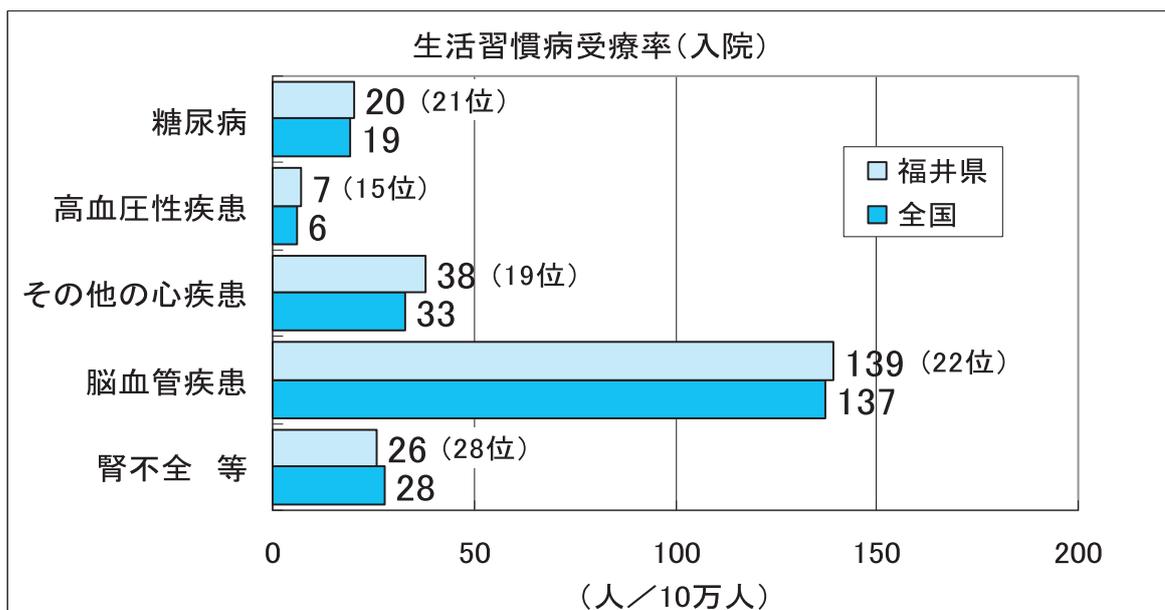
生活習慣病のうち医療費の高い5疾病（高血圧性疾患、糖尿病、脳梗塞、腎不全、その他の心疾患）の入院外医療費について、1人当たり医療費の年齢階層毎の変化をみると、40歳代で医療費が増加していることが判ります。このことから、潜在的に重症化が進むと考えられる40歳代において重点的に対策を行う必要があります。また、とりわけ高血圧性疾患については、他の疾患に比べて大きく増加しています。



2 受療動向

平成23年「患者調査」から本県の生活習慣病に分類される主な傷病の受療率をみると、入院では、脳血管疾患が139人（人口10万人対）と高く、以下、その他の心疾患38人、腎不全等が26人となっています。全国と比較すると腎不全等を除き、全ての疾患で全国を上回っています。

入院外では、高血圧性疾患が504人と高く、以下、糖尿病179人、脳血管疾患112人となっています。全国と比較すると、糖尿病と脳血管疾患が、全国を上回っています。

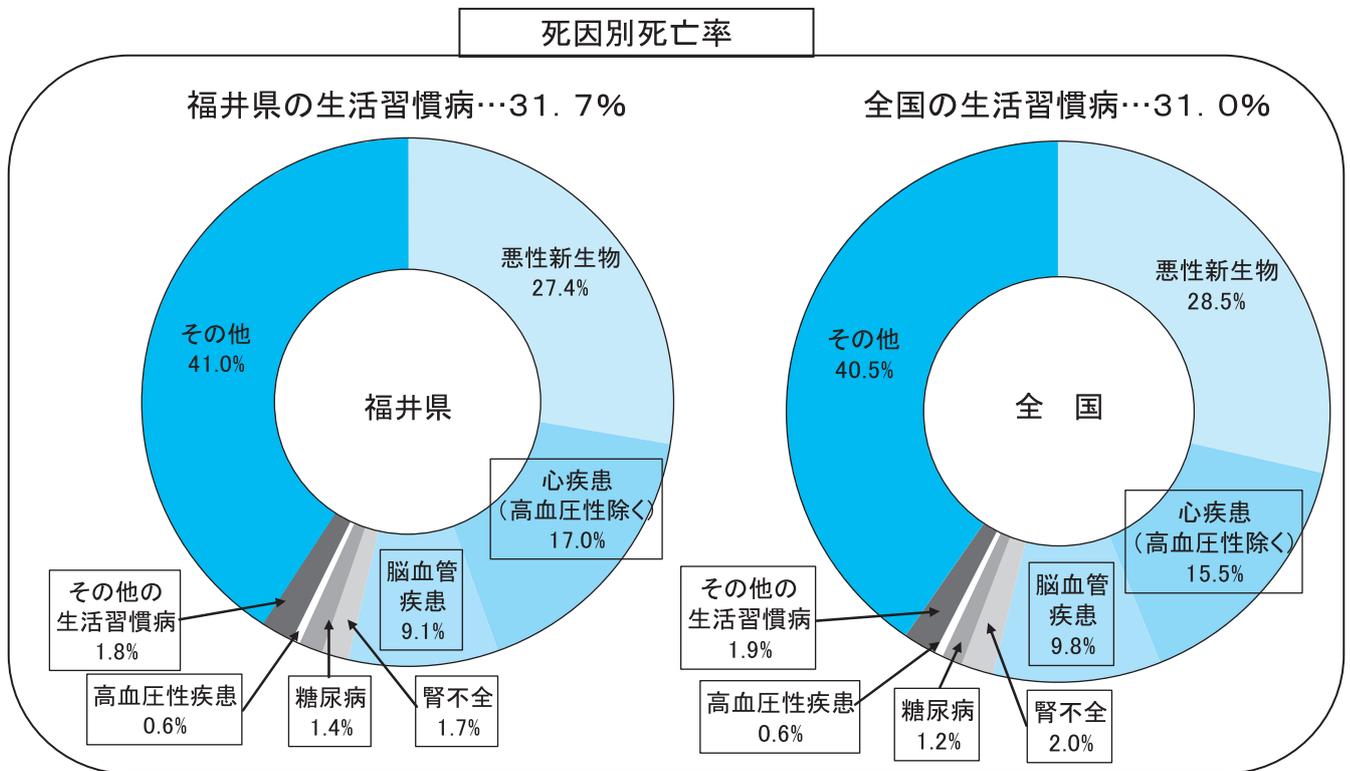


注 「腎不全等」とは「糸球体疾患、腎尿細管間質性疾患及び腎不全」をいう。

* 厚生労働省「平成23年患者調査」

3 死亡率

本県の生活習慣病による死亡率は31.7%で、全国とほぼ同水準となっています。生活習慣病の死亡率の構成をみると、心疾患（高血圧性除く）（17.0%）が最も多く、続いて脳血管疾患（9.1%）、腎不全（2.0%）となっており、全国と同様の傾向を示しています。



* 厚生労働省「人口動態調査」（平成23年）

また、主な生活習慣病について、人口10万人当たりの年齢調整死亡率を比較すると、本県では虚血性心疾患と腎不全を除いて、全国平均を下回っています。

■ 主な生活習慣病の年齢調整死亡率（人口10万人当たり）

（単位：人）

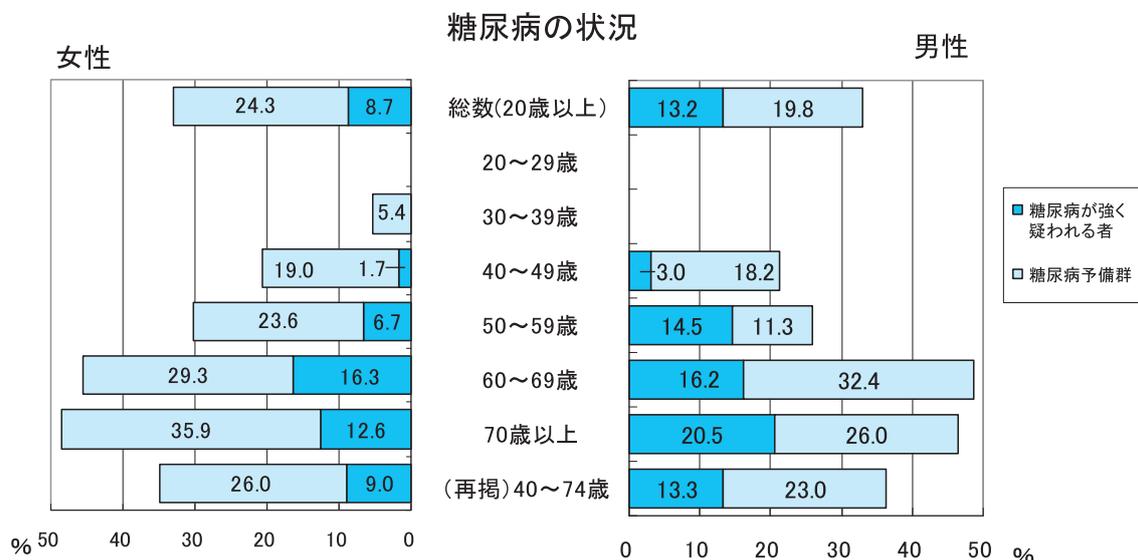
都道府県	糖尿病	高血圧性疾患	虚血性心疾患	脳血管疾患	腎不全	左の計
福井県	9.0 (33位)	2.8 (27位)	52.6 (14位)	67.6 (41位)	13.8 (17位)	145.8 (32位)
全国	10.0	3.4	52.2	76.4	13.1	155.1
栃木県	11.0 (15位)	2.9 (25位)	77.6 (1位)	98.3 (3位)	12.9 (27位)	202.7 (1位)
奈良県	6.6 (46位)	3.1 (20位)	31.0 (45位)	60.0 (46位)	11.0 (41位)	111.7 (47位)

* 厚生労働省「平成22年都道府県別年齢調整死亡率」

(2) 糖尿病の状況

糖尿病が強く疑われる者と予備群を合わせた割合は、男女とも33.0%と、3割を超えています。

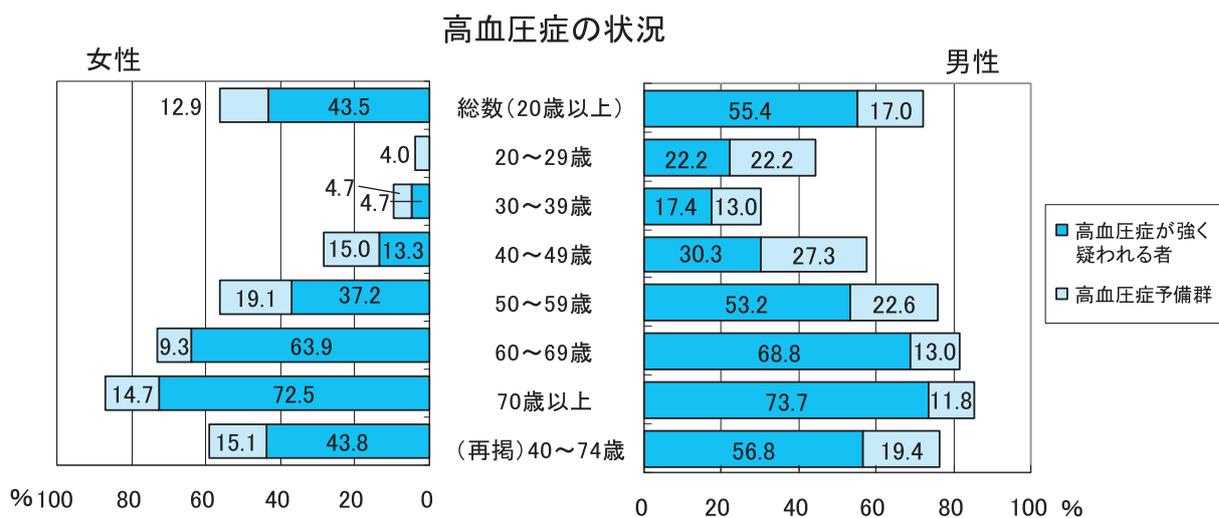
また、年齢階層別でみると、男女とも60歳代から大きく増加しています。



(3) 高血圧症の状況

高血圧症が強く疑われる者と予備群を合わせた割合は、男性が72.4%、女性が56.4%と、男性の方が高くなっています。

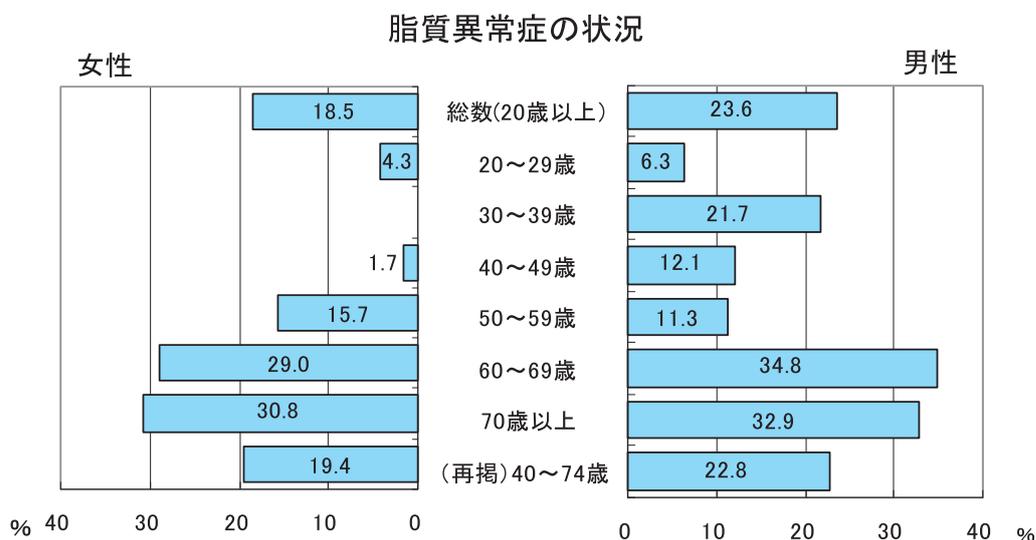
また、年齢階層別にみると、男女とも概ね年代が高くなるにつれ、その割合が大きくなっています。ただし、男性は20歳代の割合が44.4%で、30歳代よりも高くなっています。



(4) 脂質異常症の状況

脂質異常症者の割合は男性が23.6%、女性が18.5%と、男性の方が高くなっています。

また、女性は、20歳代を除いて、加齢に従い脂質異常症者の割合が高くなっていますが、男性は30歳代にその割合が高くなった後、40歳～50歳代では下がり、60歳代で再び高くなっています。



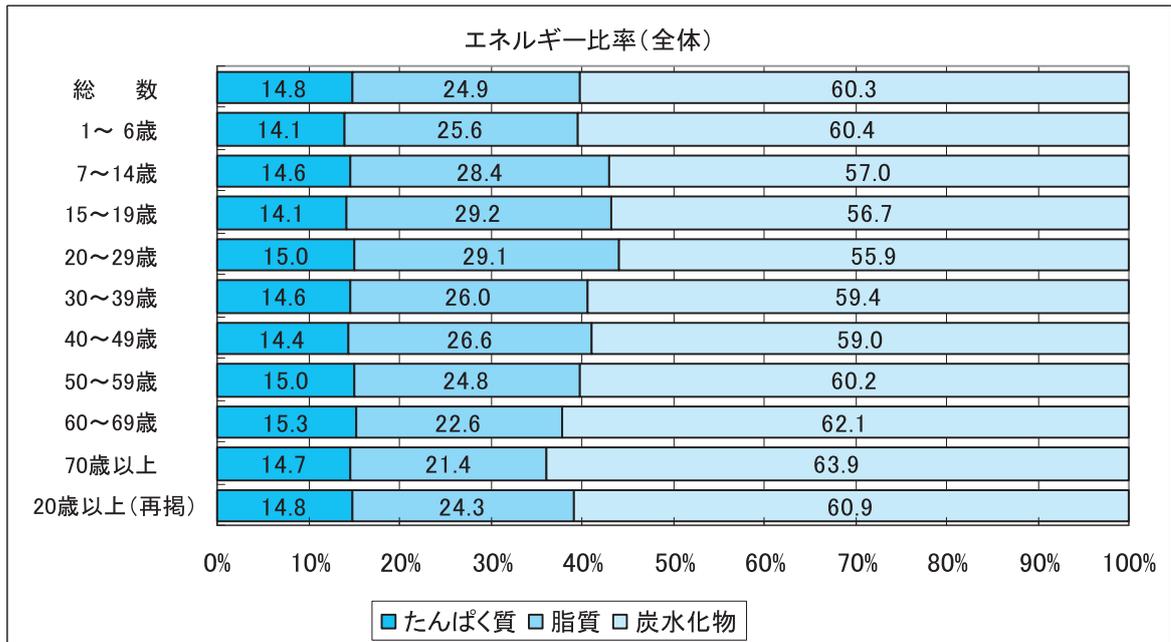
VI 県民の生活習慣の状況

(平成23年度「県民健康・栄養調査」)

生活習慣病は、食生活や運動、喫煙など日々の生活習慣の積み重ねによって引き起こされる疾病ですが、福井県民の生活習慣の状況は、次のとおりとなっています。

1 食生活の状況

脂肪から摂取するエネルギーの割合(総数)は24.9%で、年代別にみると、30歳代～40歳代を除いて、脂質の食事摂取基準の範囲内となっています。



<参考>

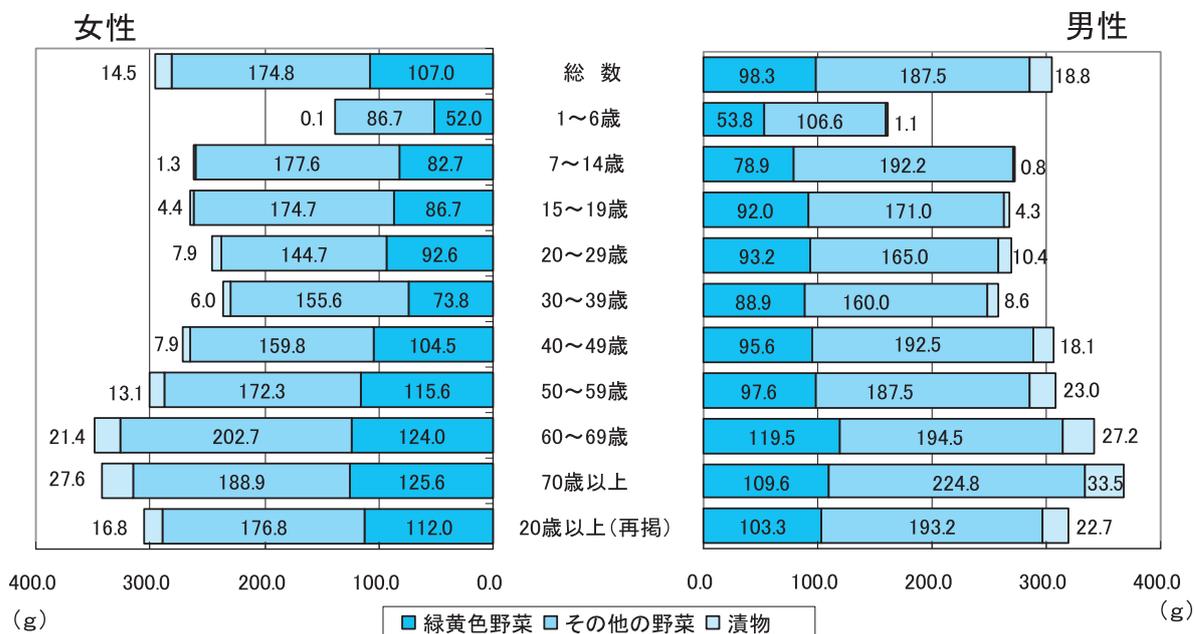
脂質の食事摂取基準(脂質の総エネルギーに占める割合)

年齢	目標量(範囲)
1～29歳	20%以上 30%未満
30歳以上	20%以上 25%未満

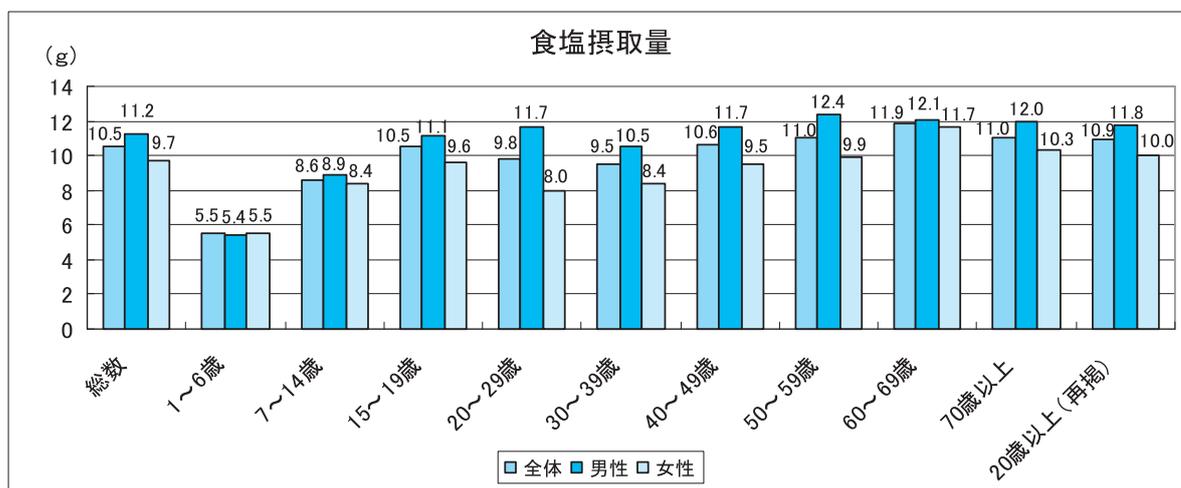
* 厚生労働省「日本人の食事摂取基準」(2010年版)

野菜摂取量は、男性（総数）で304.6g、女性（総数）で296.3gとなっており、年齢階層別にみると、男女とも30歳代の野菜摂取量が一番少なくなっています。

野菜の摂取量



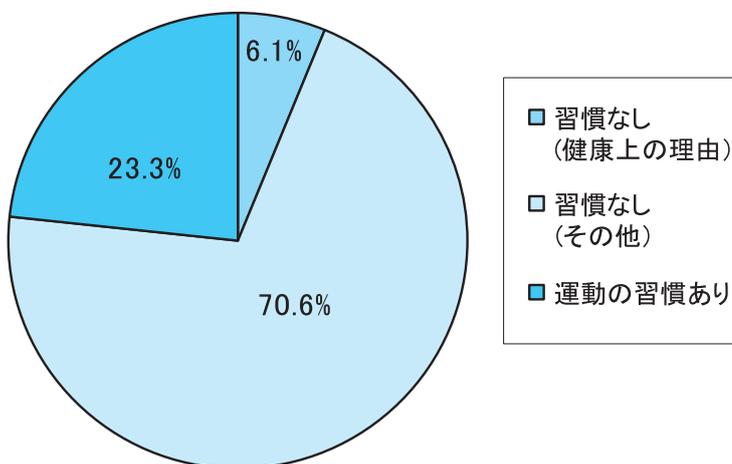
また、食塩摂取量（1歳以上総数平均）は10.5gで、男女別では、男性の摂取量が多くなっています。



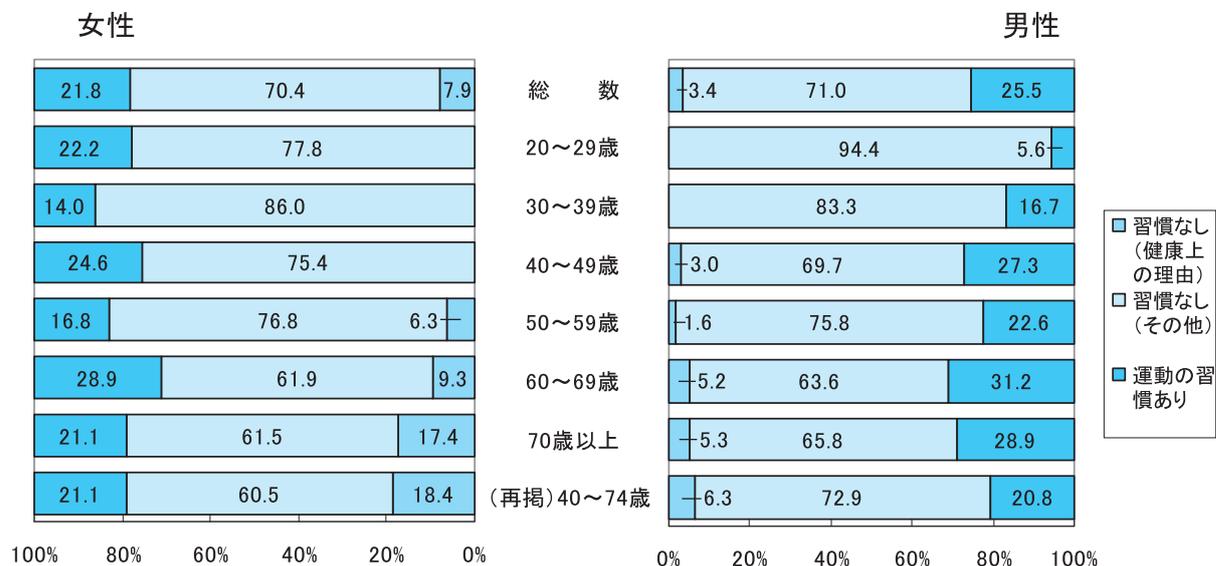
2 運動の状況

成人で健康上の理由もしくはその他の理由により運動習慣のない者は76.7%となっており、年齢階層別にみると、男性の20歳代、30歳代と女性の30歳代50歳代の運動習慣のない者の割合が8割を超えています。

運動習慣の状況（成人全体）



運動習慣の状況



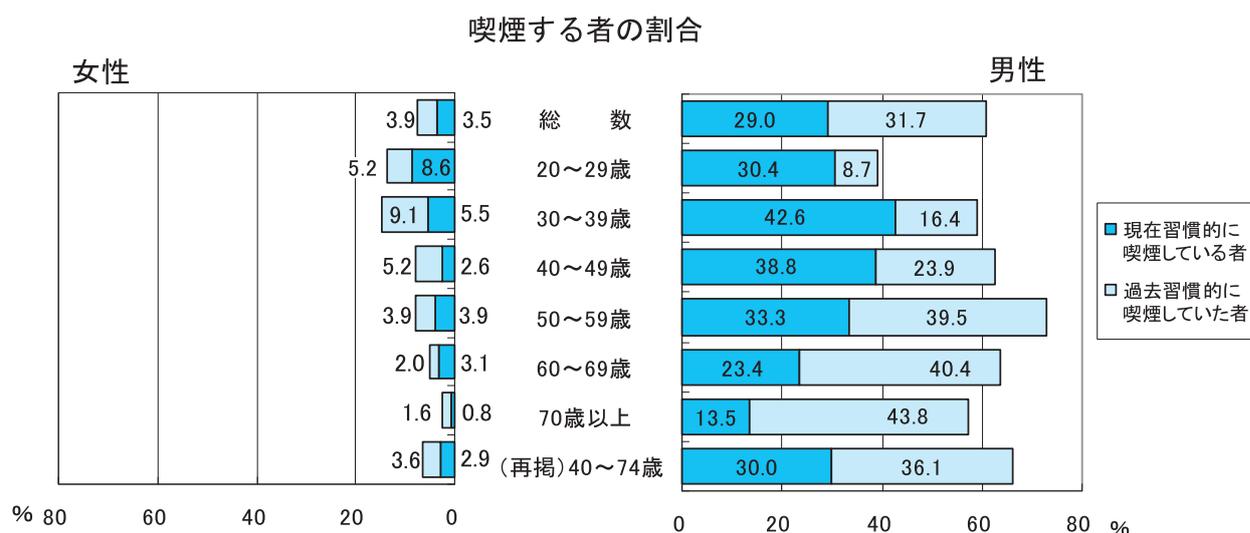
注 運動習慣のある者：1日30分以上の運動を週2日以上実施し、1年以上継続している者

3 喫煙の状況

現在、習慣的に喫煙している者の割合は、男性が29.0%、女性が3.5%となっています。

また、年代別にみると、男性は30歳代、女性は20歳代がもっとも高く、特に男性の30歳代では4割を超える状況となっています。

なお、男女とも、喫煙者は減少傾向にあります。



■ 「現在、習慣的に喫煙している者の割合」の推移

() 内は国民健康・栄養調査による全国値

	平成16年	平成18年	平成23年
男性	45.8% (43.3%)	42.0% (39.9%)	29.0% (32.4%)
女性	7.7% (12.0%)	6.2% (10.0%)	3.5% (9.7%)

注 現在習慣的に喫煙している者：これまで合計100本以上または6か月以上たばこを吸っている（吸っていた）者のうち、「この1か月間に毎日または時々たばこを吸っている」と回答した者

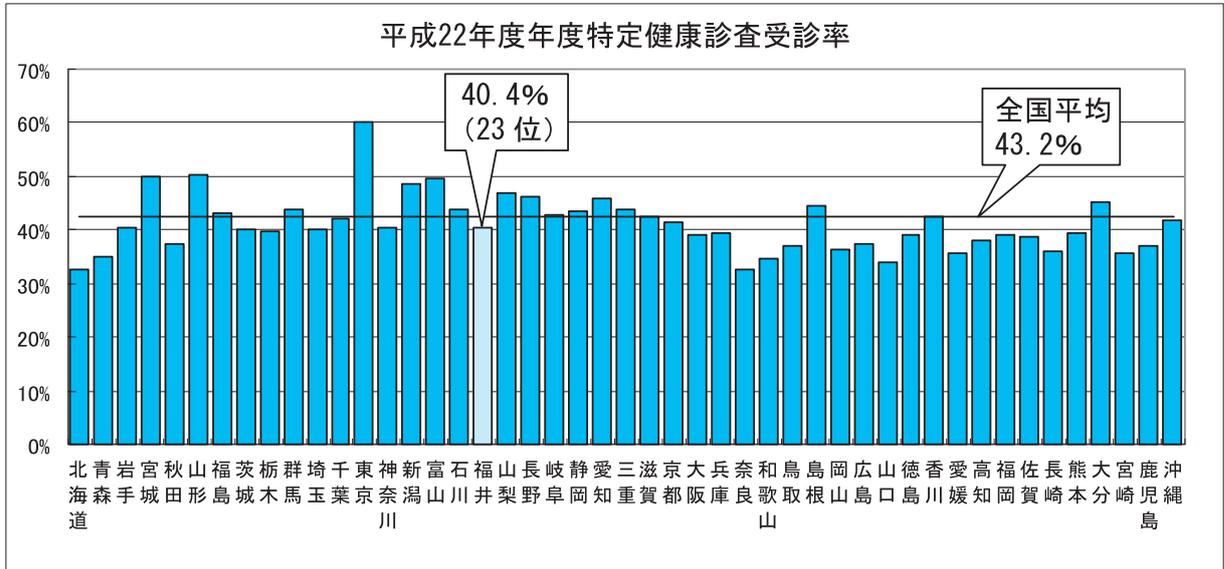
注 過去習慣的に喫煙していた者：これまで合計100本以上または6か月以上たばこを吸っている（吸っていた）者のうち、「この1か月間にたばこを吸っていない」と回答した者

注 喫煙しない者：「まったく吸ったことがない」または「吸ったことはあるが、合計100本未満で6か月未満である」と回答した者

VII 健診の状況

1 特定健康診査の受診状況

本県の高齢者の医療の確保に関する法律に基づく特定健康診査の受診率は、平成22年度で40.4%（全国23位）と、全国平均43.2%を下回っています。

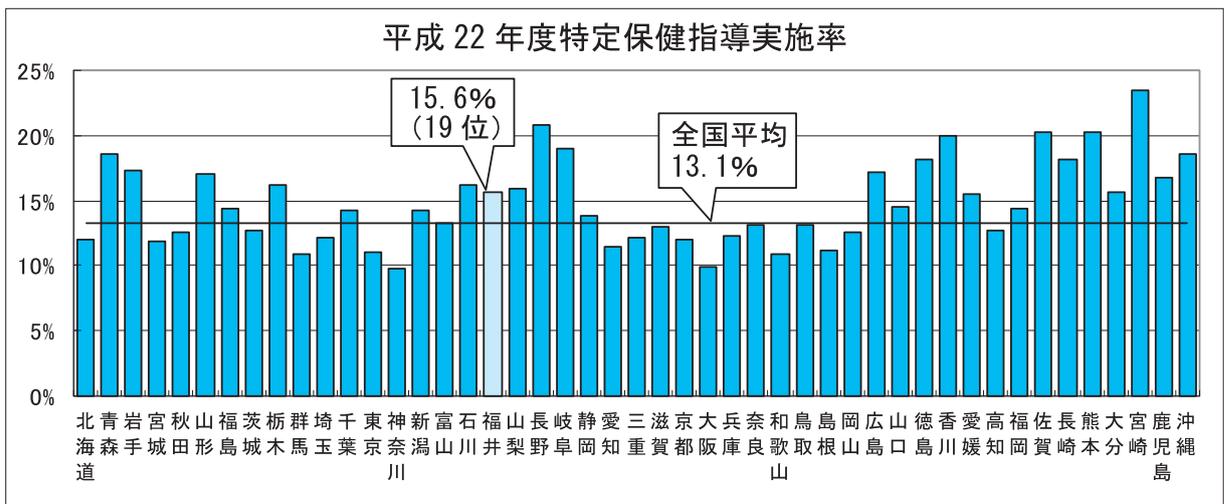


注 都道府県別データは確報値から住所不明データを除いて算定されている。

* 厚生労働省提供「特定健診・特定保健指導の実施状況に関する「全国データ」」（平成22年度）

2 特定保健指導の実施状況

本県の高齢者の医療の確保に関する法律に基づく特定保健指導の実施率は、平成22年度で15.6%（全国19位）と、全国平均13.1%を上回っています。



注 都道府県別データは確報値から住所不明データを除いて算定されている。

* 厚生労働省提供「特定健診・特定保健指導の実施状況に関する「全国データ」」（平成22年度）

VIII 平均在院日数の状況

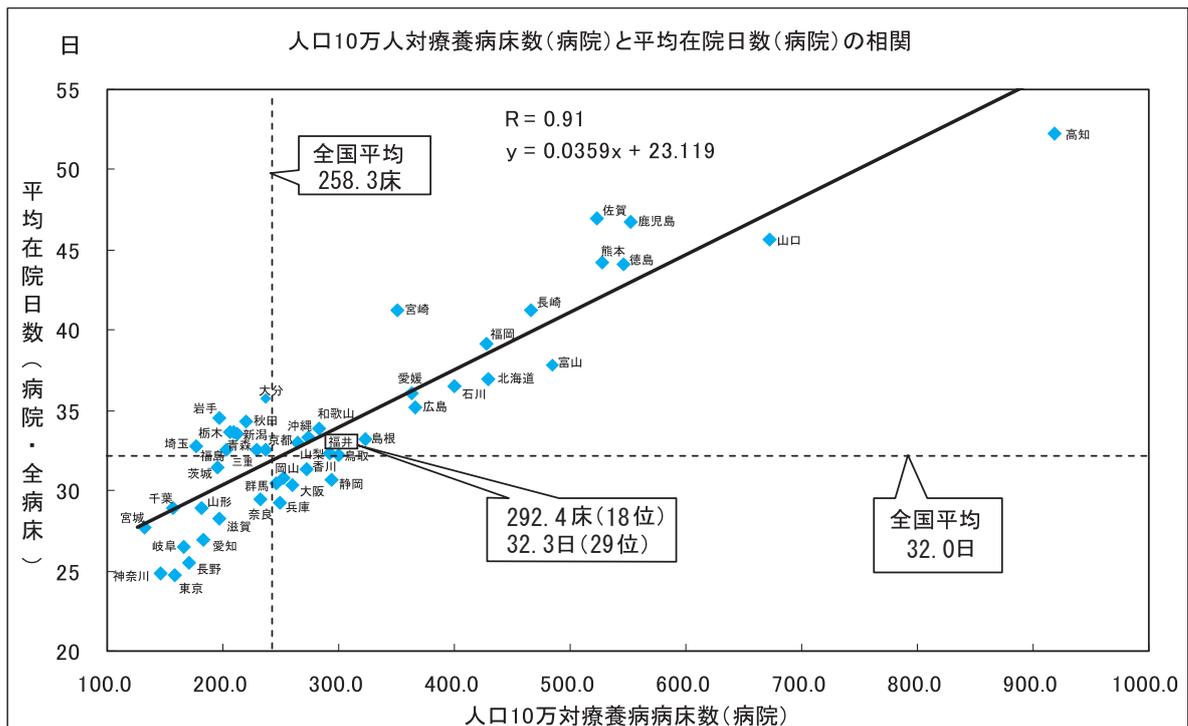
1 全般的な状況

本県の平均在院日数（介護療養病床を含む。）は32.3日で、全国の32.0日をやや上回り、全国29位、最短の東京都と比べ7.6日長くなっています。これを病床種別でみると、一般病床は19.3日（全国22位）で全国平均17.9日を上回っていますが、療養病床は136.8日（全国36位）で全国平均175.1日を大きく下回っており、精神病床も220.2日（全国46位）と全国平均298.1日を大きく下回っています。

このことから、本県の平均在院日数の長さは、病床数の最も多い一般病床の平均在院日数が、全国平均に比べ長いことに原因があると考えられます。

また、全国の平均在院日数と療養病床数の状況をみると、強い正の相関関係にあります。

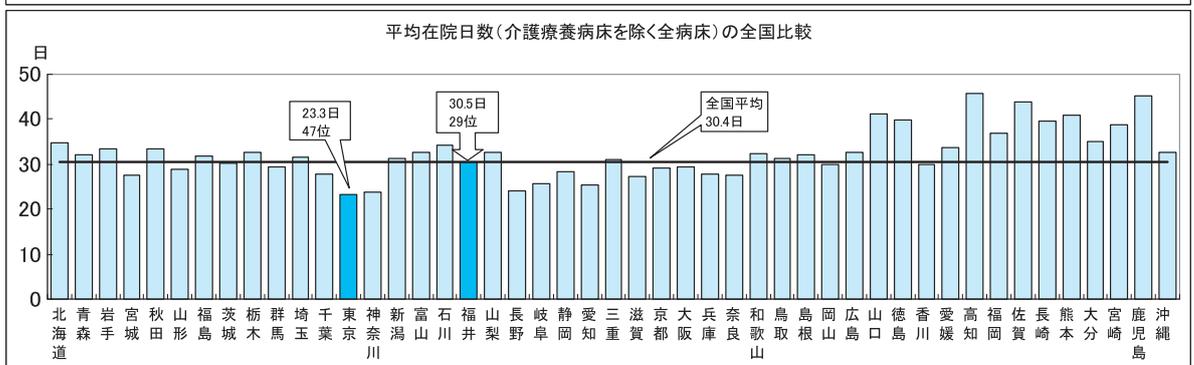
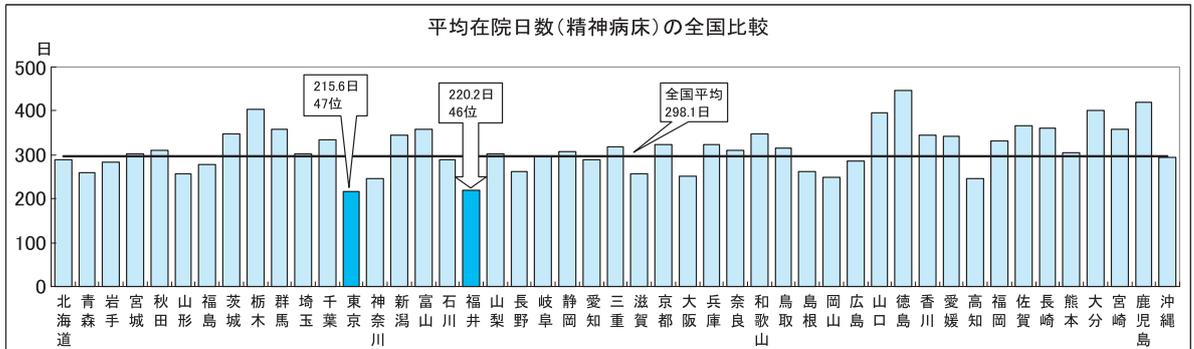
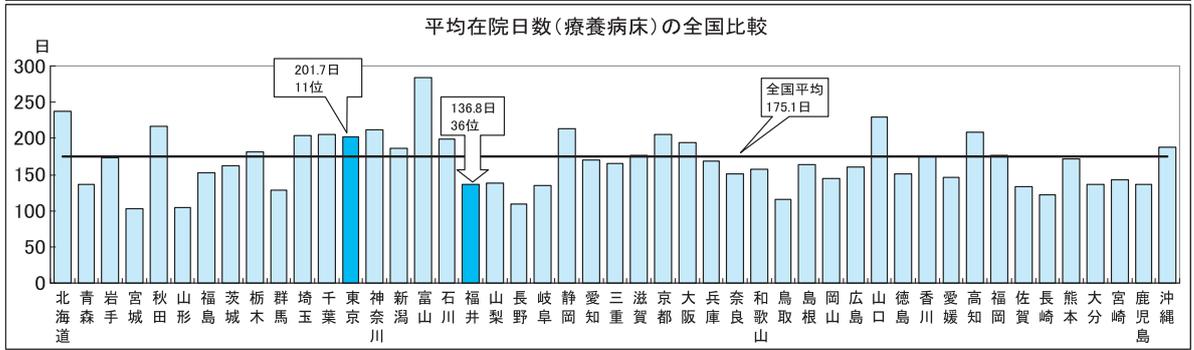
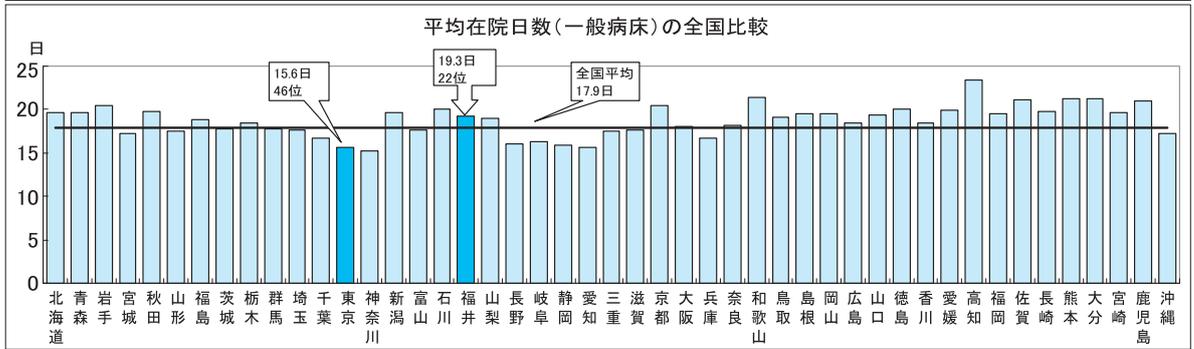
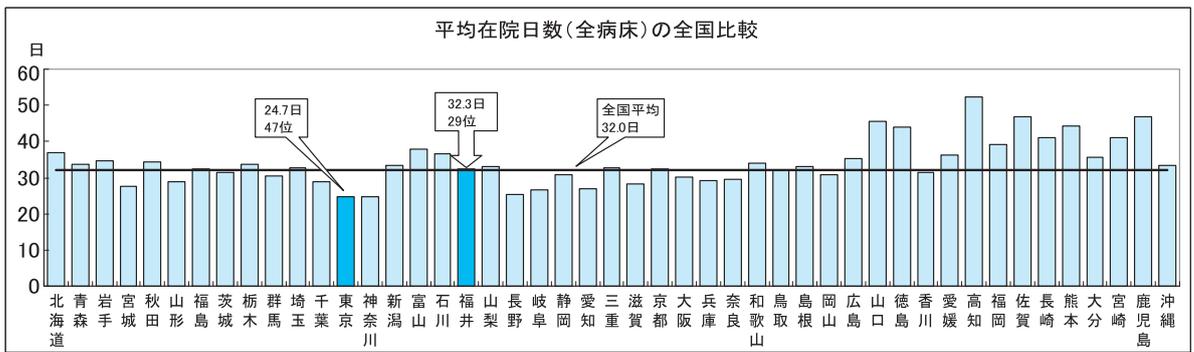
なお、本計画の目標値算定には、介護療養病床を除くことになっていますが、除いた場合の平均在院日数は30.5日で全国平均の30.4日を0.1日上回り、全国29位、最短の東京都と比べると7.2日長くなっています。



* 厚生労働省「平成23年医療施設調査」「平成23年病院報告」

※平均在院日数とは、病院に入院した患者の入院日数の平均値を示すもので、次の算式により算出しています。

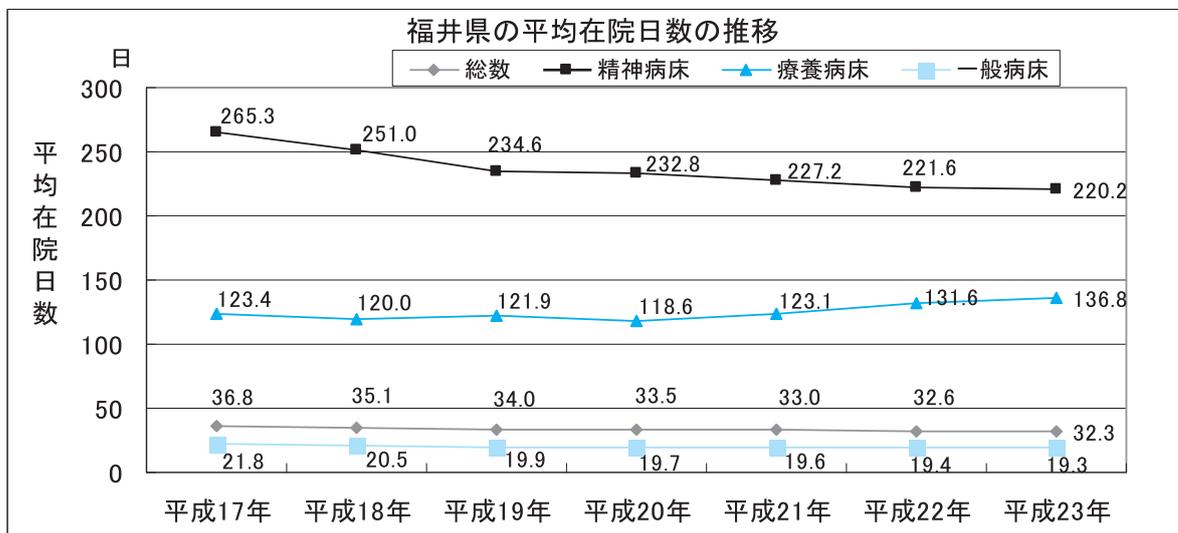
$$\text{平均在院日数} = \frac{\text{調査期間中に在院した患者の延べ数}}{(\text{調査期間中の新入院患者数} + \text{退院患者数}) \div 2}$$



* 厚生労働省「平成23年病院報告」

2 平均在院日数の推移

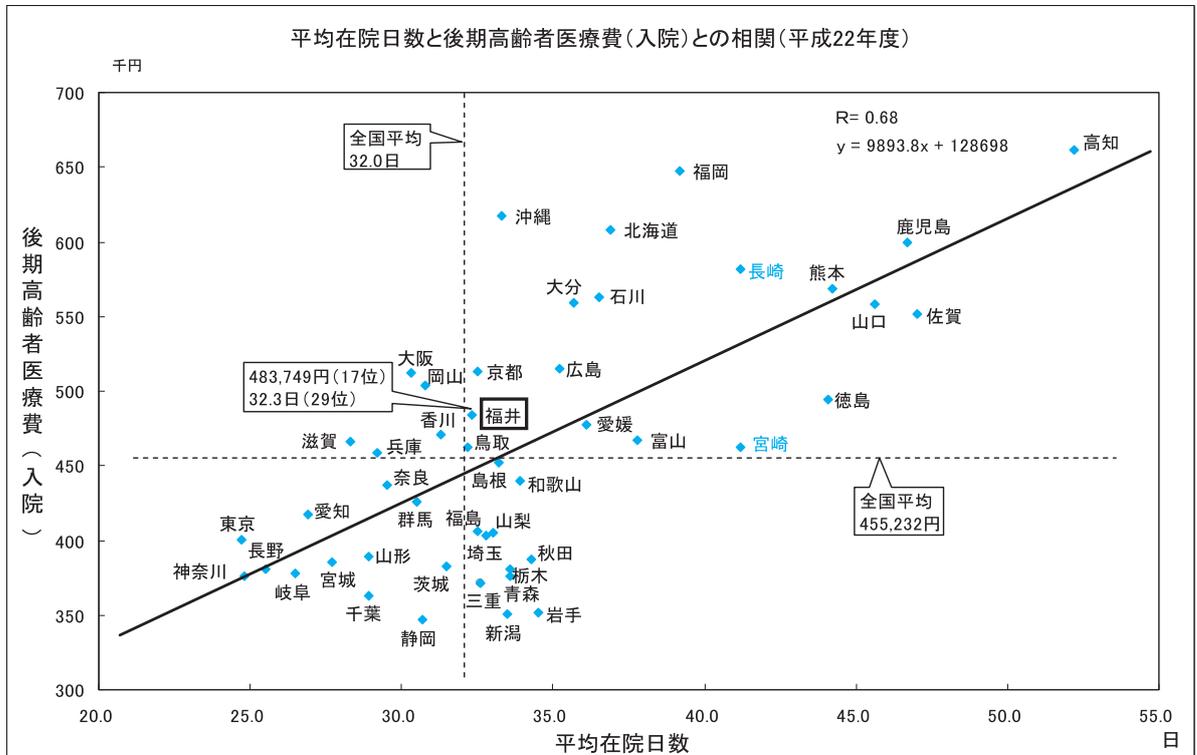
過去の推移をみると、平均在院日数は徐々に減少傾向にありますが、平成23年と17年の比較でも、療養病床が13.4日長くなっているのを除いて、全病床(介護療養病床を含む。)では、4.5日、一般病床で2.5日、精神病床で45.1日と平均在院日数が短くなっています。



* 厚生労働省「平成23年病院報告」

3 平均在院日数と後期高齢者医療費（入院）との関係

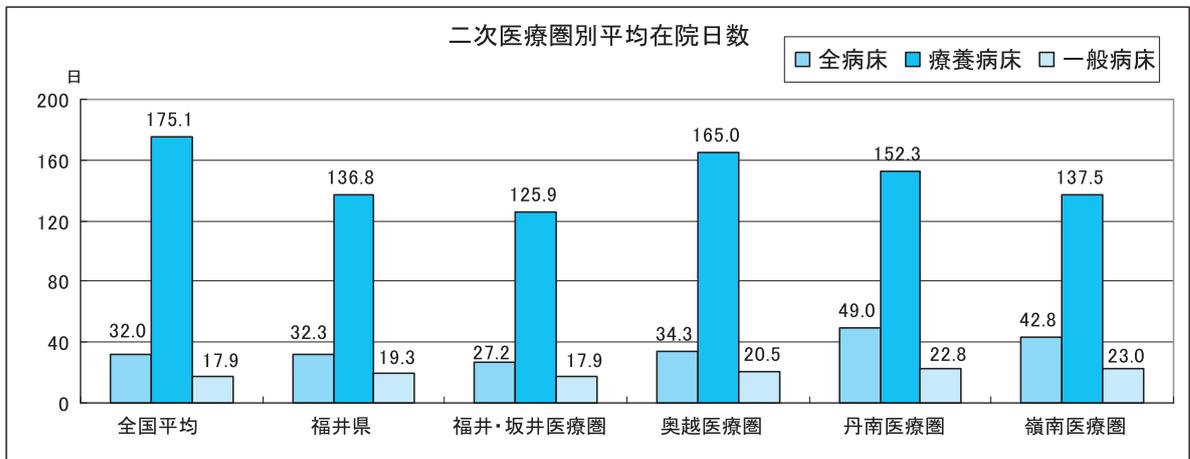
全国の平均在院日数（介護療養病床を含む。）と1人当たり後期高齢者医療費（入院）の状況をみると、強い相関関係にあります。全国平均に比べ平均在院日数の長い本県の1人当たり後期高齢者医療費（入院）は、全国に比べ高くなっています。



* 厚生労働省「平成22年度後期高齢者医療事業年報」、「平成23年病院報告」

4 二次医療圏別にみた平均在院日数の状況

二次医療圏別の全病床の平均在院日数は、丹南医療圏で49.0日と最も長くなっています。また、病床別にみると、療養病床については奥越医療圏で最も長くなっており、一般病床については嶺南医療圏で最も長くなっています。



* 厚生労働省「平成23年病院報告」

計画策定の経過、計画策定懇話会委員名簿

1 福井県医療費適正化計画策定の経過

- 平成24年 9月 第1回福井県医療費適正化計画策定懇話会
- 平成25年 2月 第2回福井県医療費適正化計画策定懇話会
- 平成25年 3月 県民パブリックコメントの実施

2 福井県医療費適正化計画策定懇話会委員名簿

区分	氏名	所属役職名等
学識経験者	[座長] 戎 利光	福井大学教育地域科学部 教授
保険者	蓬生 慎治	福井県国民健康保険団体連合会 事務局次長
被保険者	田村 洋子	福井県連合婦人会 会長
地域医療	大中 正光	社団法人 福井県医師会 会長
	齊藤 愛夫	社団法人 福井県歯科医師会 会長
	石丸 美千代	公益社団法人 福井県看護協会 会長
介護事業者	松井 一人	福井県訪問リハビリテーション研究会 会長

(敬称略)



健康長寿の福井